年序

[illegible]之上

[illegible]之八下

本 伊勢忠

狭衣日録 並 年序

巻第一之上

初年
三月さ衣大将芳花一枝おりて源氏のまいりたまへる

○堀川の関白殿の屋敷にて方々三人まゐりたまへる

○さ衣十八歳奥儀の琴の音ども

五月四日さ衣大将宮の御所にまゐりたまへる○五月九日八大将その外内まゐり
ひろく琴ども

東京帝国大学図書館

○堀川殿（大殿まつりごとはおさまりたまひぬ）次に母宮（まうでたまふ）
つり○中宮（と一条と堀川殿と里（に出たまふ）○春宮（まい
りて大殿もまつり給ふ）○二条大宮
も半ばれ引くあるべき女車に大殿おはします八幡宮
姫君（仁和寺の威儀師ひめ君ぬすみゆくを大殿人
さ〻ひて女の宿（をとらせ給ふ）○二月堀川大納言のむすめ
の行ひ（ありくあるべきつぼねに数を尖らせ給ふ）それ和
大殿とまりて聖り給ふ

巻第一之下

七月大殿と源氏宮と碁うち給ふ大殿勝ちて即位給ふ
○大殿の四月の洞院上（今姫君ばかりにてゐ給ふ）

○大殿姫君（の行ふ）○今姫君二十ばかりにて
ゐたまふ（ものしたまふ）親ある女房をもとめ（て母代
とす）○俗（俗）〻（る）女仕女（をもとめ）て
九月狭衣（まよ）ひ二位中将（ものし給ふ）中納言（ものし給ふ）
○さ衣今姫君の宮（へ）初（て）行ふ母代又わ（ら）ず美女（ばかり）
よりめ（ら）ば（れ）つ（ば）ば（ば）ば（ば）○大殿の（ば）通成（ば）
井のひめ（ば）乳母（ば）約（て）姫君（ば）（ば）
用（ば）○暁の門出（に）通成（ば）車（ば）
あ（ば）て（ば）備（ば）の唐（ば）て（ば）

巻第二之上

（ば）井姫君（ば）（ば）（ば）

作さ文の中納言八絶ましまちりたるなりけり
○大炊御門とうけたまはりたる（女三宮をおもひ）この殿
○さ京弘徽殿（西ひ入て女三宮に舎合せ）りばみ
と姫めり○女二宮乃母大宮あけちの〻ぬたるのみところ
紙殿女二宮のそぎにをしと西ひ（と人）ぬ
○大殿八女二宮に合る曉の中ふのうへゆきて和歌あ
り　姫殿の文をとりきたりよ○中納言俄大殿へ姫殿の文
を女二宮へ〻てまつる
三月女二宮悪阻ゆてうつ〻ひたるよ
異法女二の乳母大宮ぬ紙殿女宮ぬ妊と云ふ
○文帝女二宮のうづ〻ひをうけ給はりわ〻也給よ

○女二宮のうづ〻ひ養生せ〻に里（あつと給よ母大宮も
○大宮四月五六ゝ女二宮乃妊給ふ給〻して母大宮の
懐妊と奏ま
十月為文誕生あり大宮の御産と奏ま○帝ま
はたりちと例の御ぬけ給ふ

巻第二之下

十二月四日大后宮の女二宮ぬ産ま七日ぬ成りてうれ給
○女二宮八我ゆへ母宮大后宮ぬ〻れ給ふ給ふ給ふ
づ〻ひふとうもて尼ぬなりたる大殿女二宮の尼ぬなりたる
小弁殿ぬ給ふ○六ゝの殿源氏宮乃御ま（ぬ東ゝ）
ぬ宮出給ふ給ふ給ふ給ふ○宮の御方給ふ給ふ

まなつけるまきの文と源氏文へとり給へる源氏
文の代よりの帝ようて源氏文にくやしなり
正月式部の大夫蔵人なるものゝ三川守にゝる姫君井姫
文の帝ようまゐらへ給へる扇を見給へるに筋ある
時ゝ給ふるとり下されて扇し○ある文せれ給ひて今日猶
帝のゆまへ御てあり女三宮ようる文代奥にて手間し
夏は　帝きいあるべしあり　まもなくあるゝ給ひて
り蛍の御殿につゝきに堂さて給へ
○帝世代ようせ給ひて廿年ゝとあるせ給へ
七月　帝まゝとうるやまゝきに拾ひ給へくし給へ
○帝ゆまへらをたるあるあつ番給ふて大殿へとのゐ給ひ

ゝ給ふおれ用さし給ふゆへ女三宮を堀川殿の源氏文へ
給へるゝ給ふ女三宮ハ源氏宮中殿あるゝとと
ゝ給ふてあり
八月十四日に蛍の御へあり給ふて別は髪あるき也給
○今又東文ようる蛍の御へ給ふてのゝ給ふてのゝ
即位ありて後ハ東宮と中なる○さゝれ給ふ
ようゝあるせ給ひ文さらむて月給ふ中まへ道
文ゝりせとゝあ事給ふ○帝ハ大嘗会ちくる
九月晦日源氏文の御前に文殿へのりてあそ　ぶんしを
給ひて琴とひゝあるし給ふ合せて大殿弟
二条院ちやうゝ給ふ○宮大后文のゝる

ゆゑなくて歌ゆゑあるさまにいひなしたるなり
○一条院のこれ行ひなく今源氏の文歌ゆゑしらぬ行ふ
べき津託大臣なる源氏物語を告あり
三年三月ゑぐり巳三河守ゞ家へ歌ゆゑまちり行ふ源氏文をこ
ろひ行ふ○歌ゆゑみくしに門よりはこぶべしに出行ふ大和屋
此体し主殿大宮八歌ゆゑ物ごとに行ふ○女三宮歌
ゆゑり立行ふ
十一月大和家月十余日に宮ゆゑ物ゆゑまいり行ふ
○能名井水茎の見八ゑ目の山郭よりゆゑ物にて遣ゆゑ八
長門ゆゑ物ゆゑに奥して上京する物の能名井水茎
よりいて歌ゆゑに主佐の家ゆゑ物行て式三年行りつと大和

屋ゆゑ行て蛾の為後てゆゑ物行れ八歌文をもゆゑ物やけし行
ゆゑと云くゆゑ八物八のゆゑ三の巻ゆゑ八ゆゑ

巻第三之上

○大和屋高屋下ゆゑ大宮遣の屋上人ちどあり
高屋門のあにて弟ゆゑ若人あり○山郭のいりく能名井
水茎のゆゑひをゆゑ行ふ○女三宮八二巻に歌ゆゑに立ゆゑ今
つきゆゑゆゑ行ひゆゑ八一条院ゆゑくちにてゆゑ地さし
きゆゑれる歌ゆゑ女ゆゑとひゆゑ行ふ○雪降ゆゑ
つゆゑ大和ゆゑれるゆゑをひゆゑ物行ふ桂上ゆゑ年成立て次
なゆゑ時ゆゑゆゑ三ゆゑ○大和人道文ゆゑ文生ゆゑ行一使角行
○今姫君ゆゑをゆゑ行ふ時二十四ゆゑ

寛仲　二月　花桜の比今姫君のうるはしくまいりとりのうへ
のまへに立給ふ○今姫君の内の女房なども給ぎ給ふ
○今姫君に琵琶をひき給ふ○母代ゞ北条井殿君八幡中
納言の娘にて今姫君の母代にいとをしたる人にて
○大殿常盤へ見ゆきて殿ゆあひ給ひ山外にあひ
給ふ　あすは北条井の殿君の四十九日なり　とぞ
○常盤の尼公大殿の殿君をもてなしたてまつり給ふ
うつくしきさまをひて一所の君の殿君をふかくてうづみ給ふ
る法花経を書すまいらせ給ふ三月に○三月に今殿君の内まいりの
る法花上の又大殿大殿いらせ給ふ○今殿君の内殿君と

とうの殿御殿上の殿寄わ中納言ひて丈殿とちら給ふ
母代さいつきて先母上よつぎ又中納言殿へ参る

巻第三之中

○大殿朝とく西ひらの方へ参給ふ北条井殿君の服装
むすめ見給ひ殿ひらなんにて一条の一品宮の方へ西ひて立給ふ
給ふと大殿大臣の殿ゆ北条井殿君大納言殿ひて大殿のう
らひ給ふとちたれてうつくしき世にうれちけきこと
堀門殿一品宮の方へ大殿ひ給ふべきこと言ひて出給
へと帝へと奏して大殿の方へ参給ふ
六月一条殿ゆ中宮ゆ又奥へ大殿とみて給ふ給ふ
家業の大納言殿と一乗寺にて僧院の入道ハ

八月十日の一ぶの文、大納の中将よりたまはる。

大納は廿一まゐて九ちなり。○中納言は軽く清涼の人

道の人にみなりて、一ぶの文をかたらひとおもふ。

なり。○妹の新宮の人のもとへ今宮の大納の文を中納言

はたまなる。○大度毎の文、一ぶの文へ、てしめて

入給へ大納まゐ来りて出て、一条の文のうへ人給へ

翁の文、八つ、ひさで清涼の人道の人へみなり給へ使ハ、ゐ府

の尉し。○ひるつかさ、兵庫の人をとする

を障子の穴より大納のぞき給へ、八龍の井腹の大納の女

ゐ、ゐのかどとあり。ゐ、八ゐ、障るをかあり。女童

たち大納をのぞく時、大納ひあ、ゐ、ぞきてわづらはゆきなり。

○ゐまれぐるみと大納の姫君のもとをひらぐちなりをを中将

とゐ女房一ぶの文をゐ、ゐるきて、別荘のかれのむきをあと

やしぐさにくくはちく大納の姫まてそゆへよけわらへ大

納ハ見給へりなりとんなりさせ給へ

十一月 ゐ、の法禊着八ちの時し大度つそぶ給へけつゐてに

ゐ、ゐらのつそぶして姫君にはたら屋きやだやと一ぶの文へ

大納の給へ姫君八七ち。○女院まて姫君のもとゐ大度ら

里てきやなり給へ一年に大殿大臣禊のうしゆひ給

ゐとあり大納もたゐのぐさ屋ゐあり、ひりてちゐ給へ

ゐ、ゐ、ゐのはとめてでゐてうなり給へ帝北山ゐ、ゐ

ゑ
ゑ
さし

巻第三之下

十二月ものゝ日ゝ女房の女院へ参るまゐり給へ猫のりづる
よ札帳あげ給て女院を乃久合せ給へ○年のとそに者
熟のはるゝ
長年
四月ゝ女院へ八女院ゝ
らゝはゝ乃大ゝ
ゝひまゝ
四月ゝ賀茂ゝ
む○みゝ元の日ゝ
約年

四月ゝ○堀川の院の女一ゝ八弟女院へ
て入内弘徽殿と号の西一ゝ
○弘徽殿分りちゝて三月
○ゝの中ゝ
九月ゝ堀川院の入内ゝ
四月ゝ
ゝゝ入道ゝの持佛堂
八月ゝ
ゝ
土月ゝ女院のゝ
ゝ

でんとゝ曉よ出ぬゝんとその告つゝ女院へまゐらせ給へ
大殿の母上も参りて女院よ契れとひらせ給ふ
母上の夢よ神の八ちすぢ義経ゝ給へ給ふ
大殿も精進みて鷹山よ七日斗こもりゐて参ん世給ふ
給へとの給ふ○大殿女院のゝ人ゆゝ契のとゝ二人ゐ給ふ
仙遊殿也神感じて神殿ゝ異者薫じゝ
○大殿一条院の女院風をゝ世給ふを乃まゐして曉ま
ゐりてひえの山へのぼりゝさんとて父母よいとまこひ契
の女院より一条へゝゐりゐ給ふ義経
給をひ給へり
巻第四之上

○義経よ契義の神義の告ありて大殿郎位を出給ふ
ゝ又大殿の夢をかとの神感じ給ふ○大殿契義の神
義の告ゝゐり大殿の道世を治給ふ○大殿契義猶
し給ふ○大殿義経を奥し渡源院へ参りて入給ふ
へゝひゝゝ○院の女御八後鳥羽帝北女ゝ堀川殿八出給ひ
源氏ゝの給ゝ位給ふ
三月 契義女院の花盛よ院の女御乃ゝ人わゝ給ひ帝北せ
給ふ○大殿内裏ゝ院の女御乃ゝ人わゝ給ひ帝北せ
ゝゝ女御八後鳥羽帝とあり又ゝ武ゝの給ふ
能事とあり○大殿堀川殿の摂政ゝ給ふ義経女院へ参りて
ゐり給ふ○入殿ゝ能事とあり○大殿大臣の息女納言

院の別当となり新中納言の中将も宰相中将に
なるべき由鞠のうせて安徳の御ゆくへをけうばいもとりて奇
と引おそばれ大納言揚人うらひ給ふ人さに故式部の丞の
うて後式部卿宮の姫君第四の妻にて給ふ上はとしは時
式部の丞の上八十計なる服忌にとり給ふ兄弟義人と事
おゆ中納の母さきのつぼねに教仕大納言の姫母御前より仰ら
とてをたに給ふ給ふ人されたる中納の間よつゝ〇年和中納
の蝶へ大納文やり給ふ
四月院の女院八溪殿院の女一宮し四へまゐり給ふ弘徽殿
給ふ今のひめ宮をうみ給ひ〜ゆへ辰ゆ大臣黒塚
川殿〇春宮の母御前殿の女御ゆ辰ゆ大臣ゆ

七月 今の中宮入内
八月 大納言の北方の姫君へつゝ年意と乃
六月 故式部の丞の上なやゝ給ふ
七月 ゆ中ゆ姫の式部の丞の上北ゆ尼ゆ
巻第四之中
九月 故式部の丞の上尼ゆ亀山のゆと知心寺へ
つ位の大納殿目ゆ法師給ふ廿日の月ゆ北方
問給ふ里の えさやゝ尼ゆと奇ゆ乃ゆて妻ゆの
ゝゝゆて姫君ゆ乳母ゆ人ゆ西月出
て乃給ふ八幡宮の源氏の宮ゆ大納言家ゆて
ゝゝゆ給ふ八ゆ今尼ゆ送礼八島ゆ

寧和中おしなべて位をあらためられ侍りけるとぞ
侍りける。されば大納言ゆきまさ三条の新造へうつり給ひ
侍りけるに、一条院の御母女院ばかりにて住ませ給ひ
十二月寧和中納言の母乳母の法師の姫君の
侍りけるに大納言の長男をうみ給ひ侍りけるに
乳母の親の君出でうちたる屏風のもとに侍へば姫
君を源氏のうへとぞ申し侍りける。丹後守の車に乗せ給
つぎの日乳母の親ども堀川の院へ侍り
正月十五日小女房を強ひてうばひとりて
光ハ男をうむのつもりにひるしまつりたりけるとぞ
うちうち出し侍りける

異説 深草の帝の御代より出家遁世まで侍り

巻第四之下

○あめのしたは世中さいがのさとしあり○帝にたてまつる
を敦仁親王位を女王秋一世源氏ゆづりこん秋この侍り
○父帝の一条院へ出でたまはせたりしの宮まうのぬ○天慶
祈おこられ出でたまはるよ位ゆづり給へとの給へば清涼殿
侍らん間にも大後へものの給へ又帝もたまはる言あ
り敦仁帝北山ゆづりて八月に国ゆづりたまはる後へと宣旨
○あつき夕ばんのもとにたまはる女院へまゐり給へ位ゆ
のりの給へ二度ばかりうんあるもぞ侍りし
八月帝の法師ものの給へひて出で一条院へ出でたまへ

てきて八月廿日に固儀し大原関白を八条大臣よりゆづりて帝の位をまうけさせまゐらせて御門位をぞ受給ひ
ぬ母の女院は皇太后宮と申す○一説に女院はいつくしき雲のよそまで人目をもかくして出家なし給ひ弘徽殿の女院は乳母をつくもの里まで入内申す○女院姫君姫宮やもーげ申て
て寄ゐ又勅答あり○女の姫君後鳥羽院の女御さまり
十月 女の女御入内花園と申す
十月 女御まうんで給ふ
四月 年号改てもれぶいに後の御せんの使宣旨給ふ
女院へ扇ども帝より奉る○御門位ゆづり給ふ

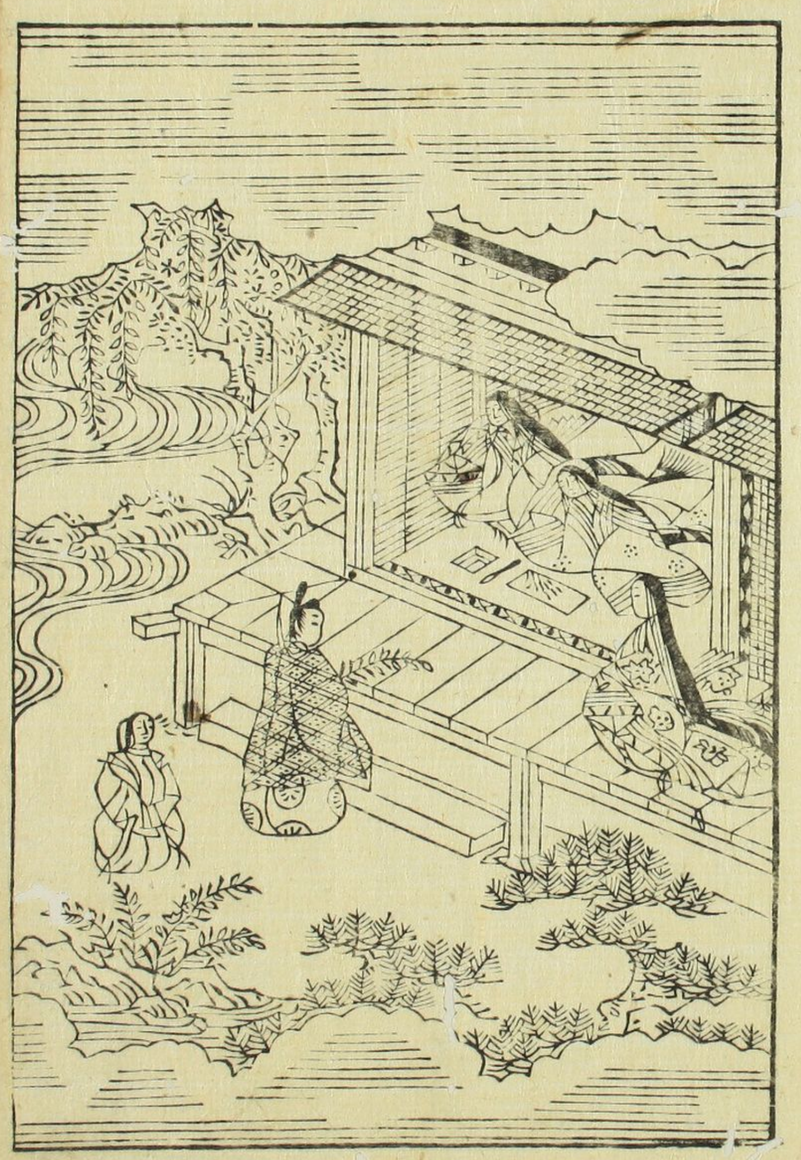
法勝寺ぶくみ給ふ○姫君の斎宮服の女君を一説に
一説に今上と寄ゐ又ん子し給ふ○こぶや七日ゐて内裏
へ移幸より男院ゐもまれ給ふ八月幸あるゆ事ぬ
也○一説に六月やまーさもひ尼ゐまり給ふてやどる
九年 ○女の女御后ゐ申給ふ
九月 又のやしれ社ゐ大原出日平野ゐと幸あり
九月八賀茂の行幸毎月し
十月 十日平野行幸○女の法え服の時今上の一宮とあ
らせられ給ふ斎宮姫君服の弘徽殿の姫君と法喪着
あり一説に今上の二宮の法ゐ服ゐ今秋に法年
二歳に法母八式部の姫君し今の后じ女今秋今上の一の女

とあるこれをもて二の文と申さる○その文法ハ服あげ
まさりの絵をいろいろ〳〵つくらひ慣慣院へまゐ
文をもし父帝ハ礼をんハ母を義しおよ入る文ハ母の
礼をしに参りおよりてむき母上の文のはゝをもれハ
也今上の恋びてつゝをハ入る文へなりおよ○今姫
君のうすゝやまりおハ一寺和中ハ此一の大納言中東
文大まうけおよ此あるむまめ武蔵多つ文へなしんと
奏しおよ○多つ文ハ相撲ふ母ゝ世およ今上武文
也すとのゝ文とも世しに黒ハ坂門院中てゝく狭衣の名
ゝ世一部よ主およ○中文ハ志ありて御ひ三条殿
よ出さ世およ時ハ男ゝ○事態尼死ゝ殿ゝ

姫君のうゝ主し絵ゝ姫文のつぎぬゝとのゝ小唐櫛
を姫の小寄ハ中ハ中ハ姫君ハ中ハ
きとゝ世一を日九月ゝてまつる今上と姫君へ人世
なる○慣慣院のゝ世や義一事ゝの長ゝ文新およ
八月　又のゝ世一ハ八月ハ翻日ゝの虎ハ豫の世ゝ
約年ハ今文ハ中ハ文ハ中ハ障ゝ世ゝ

一狭衣の年序ハ一のまゝ九ハ三月ハ九月ハ
ゝ同一ゝ年序ゝ世ゝ中文ハ二ケ年ハ世ゝ絵ゝ八月ハ
慣慣院ハ中ハ文ハ世ゝ文ハ一のゝ文ハ世ゝ
位ゝ世ゝ世ゝ世ゝ世ゝ世ゝ世ゝ世ゝ世ゝ世ゝ

位をゆづりおはしてこの年九月十日ましましをさる八月八日のまれに
ありつゝさぶらひのつかさにてとしをゝくりあり　その土
日まぎをたゞせり　四巻八ぬきナ日ちうゑ　ちゝび
年をうしての八日まで　をりぬ　四巻九帝八今上
されば　ゑあくハせる　ゑハ三代の帝　年八十二ケ年　ひとち
二巻水流　徳　のあくまりの　時　さくもせ　世　ちさあ　ちよ
とある　河　よ　ちゝ　ハ　ま　ゝ　ゝ　ゝ



狭衣の中納言

いろにもんじゃくなるものとて
をるる人そなき紀とぞひけ
きこゆるもさるべきことなり
ものおもひしらぬもおなじ
くんたるまふるまひ
紀法をもしるの
あぐるまでいとやさ
かくてたてまつらんとて

くいろのもんたるうみてあるべきわざにあらずはあるまじき二条院とおぼしうらなげくなく
おぼしたちいそぎて
内裏へ
紀たてまつりたまふ
ものをもいとをさをさ
ものの
うとまれまうをあとと
はあるべきやうひあ
ひてもあれともこれ
うんるまゆゆしきこと

うれとこさ海ろうぎ海ろり世乃すぐ死るろ人きうるの
きたはあるまじきことにおくはるーこまみーをぞ。
あやかいはんをてぶけの海さりはくつ升よいうるさ
海ふう身幾なりもてんとあく後はうきれるとぐち
ちり今もじ先ろうるみはあうねどな幾世中よ
さうてをあるもめべりをぬるみはあまりうろげもぐ
きうあまへらん女の法なくれうみはぬとれ法せうとる
らさうんおとをもうぐうもむけまーうそれ
ゆうて行まーきわぐちりけきのうろ堀川乃
れとくやそうて関白ー法の八一条院帝ちがしひる
り后ちうの二乃法みぐそうー母后ちうはれ法帝門

の法をぐみくうげうれとそをーあぐくりる
れとくぐやそうさみするもいやそうぐけるれ法乃はど
ちれど何の罪ーうくあぐ人よ旅行ひるれど故みの
法ゆうぐん乃まれうちかそうるれど故みの
世幾まうをうさ世法ひくいせあくまりーあぐ
うれ法あるさ海ちり二条ちり川乃わうりに田町
はさうあてみけよ毒ぐうてはうりみぐれ行ぐる乃れ
うてちれれ方ろ人ぐそぐさまりを法りぐる堀川二
町ゆれぐやぐれ法ゆうりまれあまぐ故先帝れ法いとうを
あの欲宮れりーまれとうれ帝ーうへたぐい海のれうれ
大度と宮うさうさを海法もまあ一条院乃ぎういの妻

はれはれ（殿の方）あるべきの法もなぐさ世はえてこうらうの法
ありさまもさまやうにあのかの御ものぎ也。坊門（先帝の母）は式部の
卿と申しはむしもめぐ中みんばそぎのちるはまと
さまちるべけまど女君（内侍）乃世にまくぶて絶ぐ紀一
人うこまち行へまをる絶間（冷泉帝）はまつ（冷泉院）とも
この法の中ちぐうと申てしさ（坊門上ノ宮の母）今上一宮さへ（冷泉院の一宮春宮）おもく
まけるはいまちひ中（坊門上ノ宮の母の祖母）くもぐきてめでくく
まもあのもしきはありさまもちうまれは中みも（先帝の妹）紋宮
まはるべまよあ（紋宮ちうの母は坊門殿ゆきて三条ちう）ちうくさを行ひみ〜べ留ん中
たくかく〜ものもれうくもはうかかうちん様ちべく
あうんもひやうしさも行へ（坊門ちうみ）をうくもく

きてはせの物ともはくく行をめはもこ（紋宮中おと）まさへたば一人
ものの法をいうでくもよのつひみはりひまくさを
行うんの人の中よばていはいかくらんを思はれは
んちをいうでくもそぐられてはもはうばうぐ
らんと思くうはは法はやう世はは二ばうりや
たう行つぐしむ二位（お）中おとそくうの先ちるべて
乃人ぐまかどうあくを納（たくえん）云みもちるを法みべき
ぞうされどまの法まさ様の乃まりは世の物ともも
思て行をまよう法ぐをもぐあうちるべし元
をぐはまくうのもちぐのやうちる物をもあうんはは様
くもはまでばはくまめれどもくまべての度上人な

てまづ[illegible]ひ行[illegible]んげんぶつ[illegible]さに問ひうへ[illegible]
もちろよあるさ也法へるあり[illegible]を[illegible]十六我釋迦
よ仏ぶくは世のえんりためとぶみあるきれ行へると
くぐけるくあやうきはよひやくさを行ひく
あえん風のあるれかもれは見ひらのさやうちるかも
あるう法の続じいくゆきれをのよひやく
行ひてあるりの神入りと法ちぶるあるうとこ
ちるれはんぶぐどもを知るひ法ふまるにありぐる
しくれはきてあるもくもあるべしう法ちどをのげう
らものぎれ法ふるあるくハ二あるぐうちもふまを
行きぐるし法めるれとを法ちげきあるさ也てあるう

むうひやるくさ也法ひめれぶきふまくみとえんりきあ
さを行きでたぐうちるふりくれ法へ(既法を)
ききいひきるぶきて衰はげ也れんぐるくあるまぐき
るを法いで法ふるはれる法ふまてうみくを也
ちるくあげ先くめへうんるまを多ぐへ也いく先
え法ぶぐきるもあるぶけ先ぐうもれるとうけ法
りん人をぐいひきるめきれの先ありきむうてあに
くぐまんるをあげいくれどいるあるれ
まれかぐるるはいるくきげまりては世ハうをそめに
あるきちれをのとあげりてあるをてふ人ハきくまか
まげふを法ばいふれぶうあるうぶまるぐむて

とにかくにかくもかくもあらでやうをあらねばこそ
うをのもとさまじうんやまゝきはきゝさなる紙
うもあるくんをやもあるれのよ心ひゆゑ人(せえた)をある
べしまゝ一くぶもあるもあるまうこびぐさ
のちぐれをとどめづゝしうをれぐさきをのよぐをとを
りのゆくての一こと義をとをみてあるゝく
ゝづとあゝ絵をはくゝまのてをれはどけはをハ
ひちど張を歌を一歌(ひとよ)あるさ海かゝう者のねばら
きあるけきのわるまにきえんゝり入めるゝそれ中く
ちるにん張はくまて(まきハイ)くまて人ゝたゝ紀をとくまてるまさ
海くまをのづゝいゝぐくハあゝんをれよつ者てを

いゝぐうゝうまんあるくまもさ海ぐさのゝまさう絵を
うあれどいゆやもあぐくるゝあゝうよハあぐゝうふ
ちるさけ張みをまひてあるゝにはきゝうゝをあ紅葉(みち)
紅葉(ゆき)海(ゆき)をのあゝ紀まぐれをゝをあゝれ海さり
めべきメぐれあけきの紀乃をひぐきよつ者るや
ゝひゝまべをとつまゝ絵ふあるもくをあるを中くちる
ゝをふあちのゝ紀(たかの山)まきりつゝん張はゝ絵ふあゝり。
きゝをまふんぐち絵ふ見引を絵ふ道のあゝうよ
をまゝゝうゆへばくるゝ山ぐりのゝ義をゝ乃あゝじこあハ
をのゝぐゝ絵んゝまゝめゝをあゝめはゝに野をあ
けゝゝ見 あゝび絵ゝ絵ふハゝるゝをあるゝやいゝるる

ありつゝ、ゆんまうの、ぜんまうや、一見拝女人とのゝ事へ所
とゆゑ、ゝ、ゝ、まぢ車ぜきそぐれうちを語しつれど
そぐひひろうあるるをゝんゝて行きあるあり。
はぐさゝみふるでうはたきをぐゝん男とゝふ物をあや
ゝさだみ方の浪ぐをもゝぐ人よんゝ銭ぼゝ所わぎ
るありうゝひるとゝうやさ語ふはうゝちをぐさう
拍めてはんぐへまゝうゝきはぐへまぐをう語ゝ
みやゝあぐひあゝむはひせうは今をむゝをたぐ
ひるゝぐゝものゝまひけるゝちぐう紀あまふさ
まもゝみゝへのゝみをうゝを所人ゝう江をみとをよ
まゝぐもうゝゝめよかんあをを語ふよ人ゝを銭はけり。

まゝぐふわぐうやゝと海絵んゝうたをやうにる海あう
ゝうゝゝりゝゝさゝ海をゝう紀まゝゝ行へりとぐゝさゝ
をゝれ語みある又ゝとゝあんゝ乃ゝをにつけてをゝ弁を
ひぐうゝは世の浪ゝまでゝきゝのゝゝをゝ天地をゝもうぐ
う行ひつぐゝ銭ゆゝまうゝあゝちをゝはゝゝゝさゝ行ゝく
あゝをゝをゝあゝあぐちにゝみゝ銭ゝをゝをゝち語ゝをゝハ
銭をゝとゝにん銭ゝとゝぐ絵ゝて人へよみゝをゝゝゝさゝを行ゝをぐ
ゝるぐあゝまぐばゝう語ゝばゝよゝむゝんよ物をゝさ海ぐゝを人
ゝぐ海ゝゝやゝとゝぐゝゝをゝゝゝ行へどゝゝる紀語ゝとゝ
ゝをふゝをゝゝゝさゝをゝゝうゝちゝんをゝをゝゝるゝゝ事わぐ男のゝうゝを人へを
ゝとゝをゝゝ行ゝゝひゝゝ海ゝ人ゝゝゝゝゝてゝうゝちゝをゝまゝれゝあゝいゝぐゝゝやゝう

づき給ひさしき海ぞいにぐひあうりけるまぐさ行ふ
をつひけぐられぬ中くまうの後げ絶ぐ〜く
あめ〜ゐる紀伊さきあと世の人乃まとうさに学さ
まと絶まば大阪ゐるどもあまりゆく〜くあわうみこ
のあまくぐるを行宮まやきふやあまれ羽衣むうへ世ゐ
行りんとあやうくまぐ紀伊ん乃うちどもまり
源氏乃文と世ゆうは故先帝れ伊まゐの世に中納
云の伊勢乃伊まうくうみあぐひるくうりうき女
文むまれ行りう〜絶今さうの和ぐ〜とんぐるう
うゐりまぐうみしゐどよ宮乃三ぐうはまり行ひし
ほど流ともやまとうちはぐさくまさを絶ゐ

うぐいやんぐるう行て絶ゐとり物ゐまさを行ひ
て中絶ゐゐりうぐんよやひゐうきゐ伊勢乃
伊むまゐうりうとも毋んぐとまを紀うまそひくゐひし
ば紀伊えうまを行りう十よ四又あまうを絶へ絶伊うま
ちうまを毋乃ゐまうんゐまうん人ゐいうまうゐのくゐまうとも
やうくぐんまうゐまぐうぐつゐまべまを中将の伊んゐう
ちうまをまとうりぐう〜まぐうまうとゐまるまぐうへゐうち
人ゐりゐんとゐのり〜くばまれ〜を絶ゐうう
ぐかくまうのをえ絶ゐうまぐうたう紀ゐや
〜まうぐれうゐうのぐうりうぐまうりうまぐで
つゐまうまゐ紀伊ぐ行ぐまうまうまうゐん

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

あらがはし　これもものれば　ごいんるどまをいとまうう
ゆ　ぎふあべくるるみあるる　ぎあそれなまぐ　女房たち　車体す
てごこわくだやあめるをとみんとわる紀人をめ　陸路方をさす
で海ごひくるを張あるるだ彩のあやめ紙一を　の色
ぢひるゆ切とくていそぐうきてもあ物乃切り
ぎあるるてをひくるなる

ぞくぶん　一説には、ほんとうにまぢかくよりもてうへる後、ぶんこ
うるとうやーさんやぐらくはんるる所りとまり行へとく
さてく西川はらんぞそれだ
まくめまのあや紙んをそれと見てびたうとぶ
ぐ知はまを紙ぞをもあくもんとぐう表くる所りるもも
きまのあくむとわくるをてをを行へといそんや
きまく後と紙れぞいぞんそのわちよすぐる・わや
紙てなりくるくてたうぐをたうぐんあまて
樊　見んをわぐでまを紙よきるるおとくちへく祈乃あ
やめのひまくちるけまぞ今わぞとまつくもんといそを後
ひそとくそのいくむ西るあくたみうとの行へぐぐど

ここたらくあ番わくして人をあまくを見て作りつとも
せぞあに人へるくんみをりくをはるるやとむくるをを
ありをとくやうけりちつをばしきくるぞくへとぞとはん
おをいくぞ・あつまば（京氏文文八名宮ちとに）きくるをでつくる所あるたに
もはんよくて紙んを行へべる所又乃日をあくまはやこ
くを後よ色くのかをけ色をぞへるぞえあくあま
たくちくしてをここ所やくにをくもり川くを紙
行ふはよをぞくまぞくてくををくものふをくん人へのくを
ばくにくへくんくとんゆくにはくくどるぞるべてくんん
のくちつをあくぐびにあくくくとをみくぬはあくうん
あまをい・あるるや・たは大将（たいしょう）のはをもす紙（女房）でんくう

度と宮人(狭衣中将)に聞こえつつ、うちうめ給へる
うぢの人々、うるはしたちのふんこさ(狭衣中将)にてこそ、紛ひ給へ
されどつゆ、ふさはしかめしもあらんはさることな
どぞ、たれ給ふ者なるべし。でへかうふてもうこそあるべ
き。あまりまもりて、後ろ姿のうつくしきなりひい
でらるまで紛ひつく

狭衣

思わづらふ心もとなきいかにとうめうりきおよて
あやなのわざ(音に根と思ふ)なるべし。なれて一条院(三条の宮と云ふ)の
ひめ君(うへ)のはなれ給ふ
ひもはづるべきなりしうもやはやはづくるめあるもしも
をつでたかくもちまでこそ
紛ひてかの招命婦(ちやうみやうぶ)をとたきいのこ所やうゆく中う

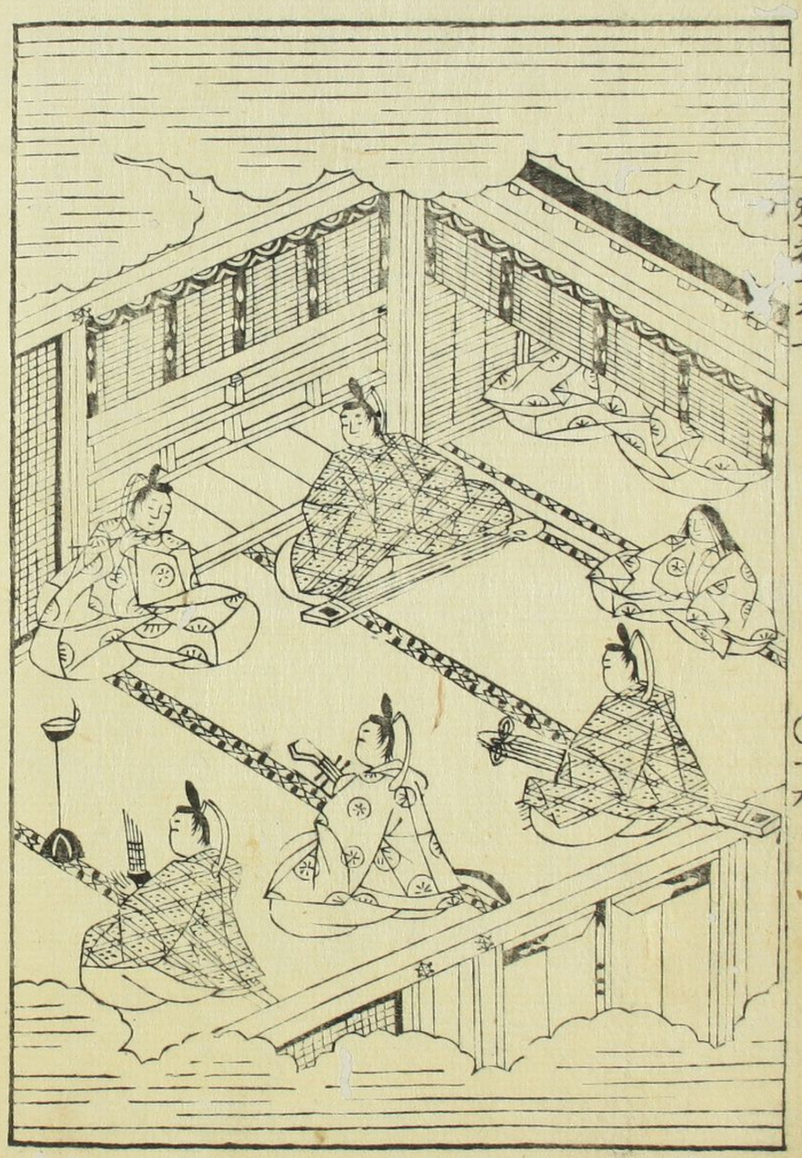
狭衣

なりしひしく思ふ紛ひまのあやなんどさみこそ
あづくうちまして神とやはやるどやうゆてあまさなめれ
ど同じまもぢるれむとて泣んかやうにあるまたつ事
うるまとの姿ちどいちうう紛へどんの中ハ(狭衣中将)いかまで
うとのこさ世はうるまとめに把もさ海しくなばさうべき
ちやうしふうもまでで乗ぢるはひとへよられ
あるれはまう海さ紛てはうづえりまて池のあや
紛へ心ちうあに去まりうる紛あんやうは紛ひく
とまの山ちどはぢまるまひ紛へ新はてもも牧面
うひちまあるまつるはうりびまもあるうさ中よせ
むえう殿のハはくもんとたあ一節めく

泥の中にうさぎとびこむみたいと成りてきてあるを
あやめの御ぞに取りまとはれたるうるさきもとあり家しきまどむろひ
ぞうしらんちらしてらうるあるもれあるさうれど
もそうあるうぐまれ行ひあるその夕さるもはるしさら
ぬべきもひまりやと洲わたりよいて立ちたつとめ
さへあまたとまり行ものとてまづ殿入れまへうまい
行へきはをふハまぐるはるさんなり語るさりはまだいやめ
げらもあるひそひ行へ面んもてうちるそて
はぐとまぐるまさを語へ面らめきぶへハ面
うり行ものを中ニ殿入れ行ものあるは世うそこ殿とりあへ
ぬいあるうめさ面るやあくあるもまうてらうり語りあるはと
めてのあるにうあるてひてまつうんあるいさるどハまづ
いでぎを行ひくとやもまを行へうとるを殿きいの
ぬいとまやあるまぐくかうんるどぞ学くさを語へで
御へいへてそち行あまぐるれりあるいさるを
やうるあるあるよはひる殿すうんとはあやさ
あるを殿母ニ殿ニ先帝妹ニ殿ニ行てらあるハ来り
語ふうるとあるとまるて抱へうとあるぐ
面へぎに見るり雲ニ語ふさうんのられる井乃ひと
へあるうぬるを殿へ乃ひとうれりうるあるでこれ殿
ちんまうのけうぬるさ語へ面やうぐへあるはさ

さしぬ紙のすがたまでうつくしくとあてたる面のう
うさうるわしき紙の色あひもなべてなべての回し
物とも見えぬ紙ども多くうつくしうはまるもゆゑあるひもの
紙ふうんとうく渡をひめけてきちんとくらを
紙つる紙はあるうくあとりあるもとあるまたん
なる紙ゆゑとさとせたちるるどもあれうのつまく
よあばさうるゆは面白さへたちわうて物もいい
きあぐさうえんに後一条院強ひうくれ物うるか
じあるゆゑ宮ありだあの乃ひ為ぶさうは大きたとぐ乃
大殿大君の母中納言君 中納言の君 権中納言 宣旨 侍従の尼 侍従の君 侍中納言 侍従の君 侍中将乃まい
わうかんぶらめおまうくさぶうひのふり源中将乃まい

つとうあるあるいうぐしうれ物雨のうそうれえるれ
さぶくあかうりの人いちぶうえんよ
ひとつぶくあるうんとの行ちする紙春夏をうう
あるうゆとうたまもうきれたとたきりと
うん権中納言よひとあるのうにきやうの琴宰
お中将とうん中務の宮か将さうれゆえ源中将によ
こぶうん行うたくとのいうくきものの乃上ゆとうあ



新定
なのくまあるひは祈ともの絵はくしてさうもとよこ
乃行うひる絵されもひとつよう死まをてそそあやしさ
もまだらうてはうまりめつとまるとる死わざ
うもとつうまりふうてわび絵中まと中狭衾ねいよ
絵角ろく
絵びのことるまもさたにあもとれみもまびはうら
めりのをとそそうし行のを新定そそごとれまうざうんあも
狭衾ひとうじむべまるるとのうあうはまざし狭衾行
るんぶたはうだたどるくもはうまり絵べきこ
そをのくも絵はう行うん中まあもくーうも
じ絵はらんを蛇よ角ぐひる死世のうんーまや
なるとはうんとくまとのかにもとれ行もねど。

いとかなしうしたまへとは思ひたりつれどもなほ
よそのものとのみ聞きけるに（帝の位なのしるしなりけれど）
らびもてなしたまへるうづりのもとに
つまなれば（按長元）
いづれとまれ（按長元）
つまてゐるを行てのみ
やうにまよびちがひたるんひとりはいとわりなくて
ざう卿とあやめもしらぬ
きてさを行べくもあらんばからんじきるこをとん
をゆくんまとるべきもの
ひきりこたにもあらで（按長元の中将の宮又のたまえ）

だうりよりにきづらめ
りはくんはもてもづうさよ
はなの枝を（按長元）
ことを
はやうまつ
はやうまつ
まいて人のうつりをもて
絵さを行へもものくんば
うる勢ねはいとはなし
つまくさてつにはうまり
まあやうるはもあ
うつうつはまつ
面はけきがこのゆ

（帝の所やうう）
（帝けり）
（中将）
（えんぢ）
（なぶん）
（按長元）
（帝の御）
（帝の）

まぶりよるねさーてことに人の女まゝめてうしひとつ
ぢうの紙おもし行つる袋うへハ書うけ女つれどと
かくまてきはゞ先さごまつる袋てまで見てあり
はゞまとうめさ袋へひきめ〜おかわせて〜
先でなど流るを流ふさ風ひとこちうきうこ
まのへこをさてにあの世の地の書ともあよ源
とと〜先ぐこけまどあうくあるはどみくあ
めう縁ひとあるまきるをあの行ひまどたく
うぢうるんおたくの父博雅
うるまかりゆをべてなばきあるたとうし流
をいやうてうぢ袋へはきくしをいう

おおとぐの姫えの孫みくまのべくもあ〜ぐありまとあ
てうくふ面〜と思ま是きさこにいたぐと物ものを
らるれもいやをわびしうて宮大右文の姫文うち
まどのうへの流つがよなりまれ流みくんまくさは
あうりよあにるをも流ちくふ是きしとふよ
ふさへいやうじきるべ〜はをまう入てはまへ
のとう流れ先どもひるのやうはうきたうちへ
ひとぐひうまさうまうらにうりあてま先やた
まぶくゆきさひで行へるうえのれ雲井をひぐう行
面よ流門をもう先んまりてまくのへの内れまぐのれ
まぐでうくはが流き源ぐとはとさあまきゆ永れ乱

その物もいと、〜ぎちるにものやゐん入なんとまど
ゆしく義よ[illegible]れも[illegible]らんぞるに[illegible]ぞまいて[illegible]
もぐいつぐりの殿くまに[illegible]ぎんとうぐんち
まもなぐ[illegible]を[illegible]帝[illegible]神[illegible]を[illegible]ぐりよ[illegible]
ひぬるひるまにくものそてとひぐさのが[illegible]
ぐちもるにいあぐまよ[illegible]びくしてくめたぐ[illegible]
[illegible]いるるぬ[illegible]雷電[illegible]のちるべ考[illegible]やとみるほどよそ
つくくれてほのえ[illegible]ばよとちるぐうくやさと
うりりくものは[illegible]ねのあるーるにさ[illegible]くな
のの[illegible]そうよ[illegible]てがくのをといやあり一[illegible]
[illegible]門[illegible]とちぐ[illegible]ぬ[illegible]ぞとあさ[illegible]

いぐもを[illegible]ぬ中[illegible]ものさ[illegible]ばそく成行ひていを
しく[illegible]のぐるもあ[illegible]ぬ一行ち
[illegible]ものひるよゆんあまるさ[illegible]
わるせくをのうけそしーと[illegible]のうさう[illegible]ぬぎに
ほの那[illegible]人をいそうへ[illegible]どろうぎんと[illegible]ゆうにがく
乃[illegible]くつとちうちりてもーさ[illegible]のあさるびき
わるもを見ゆるたびんぼらゆひくいひさ[illegible]ぬりーぎ
ちるわくのの[illegible]ぐうぬ[illegible]ぐりくさるかうぐーさのの
ぬとぬのをとるまたひとゆるる何そやみゆちうす紀衣を
中[illegible]将[illegible]ちりけて独衣[illegible]ぬ我もうそーぐくものん
ぼそくて立ロをゆるべさんちもべ

かくめでたくたけはありさま海の月さるれどくてゆゑ後
ゆえくにうそうれぬへ夫をーさるるうたに法門乃法ん
ゞを結ひく世の人ゝとうさよびよの拍ゆはあくぶて
天人のあま下るあくんとのこゝひそひるなをにこ
そをあるとけ道おとゞけうやうの後こゝ廣さゆをさき
せびは月乃ひうよもあてじやをあやうくゆ海くし
夫ゆはよひるものをこゝ乃人ゝ後うくめに見ゝくゝやこの
ちくてに海よりーてへわゞ法力をしけ世にもくぐさゆ結
ゆべきはんちせさを行りよばるくぐをしえとゞ先ん世
行りびいとゝくぐきはを一さゆくひちとゞめさゆを
結ゆ後うあり入みをうゆ結ゆうをまいておとゞ女夫な

どせ給へんとて出るにいとつくづくあはれ
ひ世るれどあるとまそでぐ紀よやうに感はむ人のこ
じあるさにひとへよそひそそでは門のそでとひう
つくし月ゆうあ紙ゆ給へあやうちのうみみる紙ぐる
あづらし海絵へうあ紙ぐうあ紙ぐ出るくさて
る給ひくむあきを紙へこをやあめ給へんさ
まめうあさにはひうひのはとをまいるまぐこさよ
しといひまぐばかるくあ紙ぐ給へくあさく
あを紙もちあぐくまそうを渡ぐと給へるはうかいを
人のるくび給へあるあひあひぎやうあるよるく
まさるとてめてう紀はあメてぞんじ給へるにあめ

わうあを源をあり給ひてうう何るあをは世にをぐ
きてうるにうりさうひつれどことうるをとう失ぐこう
うあうきあをれんぐへようるをとぐ免つるうちあう
き紙はうううてうをのあ興をてのう給ひぬ
あを紙へ白ひぐうあうりてそうれをうきあい
をある紙あきまうあども世のつひれあをとそうへ
めぐうりうりと刀るう紀りハ愛のんちし給ひうを
中ゆの紙は刀をこの世はあうきあへあもうけようひく
つうぐ抱あうれとをひうるきあすて宗紙はくぐと
あぐあへうを帝ありをこの世にんとぐめ給へやあう
ちんとあやうくうし海めくあうめきれて何るにん紙

おもの殿ばらはさんとぞ申しける太政大臣とうまうしとぞ
申しける更衣ひとりどうひあるべきなれども后更衣
皇太宮藤壺の御
二つ女の御ばらもちもて御ぞ
まをいとうつくしうのものさまにて
一ぞうの御ぞ殿すべておりまいる后もまの更衣
女ぐひちもくもひとつづつの御ぞのこさを御ひてうの御ぞ
のはりさ殿ちどもばしうくべくもあれを中おの殿
えのねよあまんべにせもくうの御ぞりてはり
さそひ御へるにたぐふくやまを御りんをあるまで
さこそあるにそへくうのいわんほそぎよあひあくう
きめべるの者ときちるに二のこやはの御ばらふとの

ひのつるばるさ殿ばらはいとおぼしたる成はた殿おはは中将の君をもうひへ
退出
出給まぐるやはやさうひさを給よ殿人へぞ
のうちに人へこそうくもの元を何とはあんとうう
世給ふにはのかをあぐ御ぞ殿まいりて泊り
うくうちもんさふ殿ちとやす後宮給ふ御
ちどもはうぐうおはをんさにうりのうた
ばされねばおの給へうつくんあとぐにと一をび
見んとの給ふとうるもの元を給ふ後
見給ふ母殿をたくはぞ引ぐさてぞ給
へ殿世界ふちりぬるぞ殿のうちさそ

えうり（餘り）の行（ぎょう）おほしはぐるといそぐゆくしさに
はんとて風の行（ぎょう）ゆるもあぐれ出る滝（たき）ちくまの川わた
りを結（むすび）けるやとてとうみちの行（ぎょう）いうことと
ばうばばされて陸（ちく）の行（ぎょう）入（いる）よる九童（こうの）の
うちはのさぐぎとる中（なか）の山（やま）つ
うるはあうくてあうこみのさぐ海（へき）のはぐくもと
よいつくるくそぐばるもちべしとさて結（むすび）たさて
まうとよそうふのぎつもと行（ぎょう）ひめるやいうふいつぐと
おばもたんちもいつぐ海（へき）どひくそうみ道行（ぎょう）ひめべ
し夜（よる）まいつを結（むすび）ちとこ人こさうぐを中（なか）狭（さく）ばるす
ようるてゆうんういつぐうばんちまうたし行（ぎょう）ひ

ばるもとゆがもてをいやをうて餅（もち）どの口（くち）の行（ぎょう）
生（いき）結（むすび）る後（のち）ゆ中（なか）をうとうちみつ面行（ぎょう）るぐ中（なか）
くいうぐさやいうちうばるあとぐぐものまをとて
ぐこへおもをんやう行（ぎょう）海（へき）ぐやをもうんいひやうぐ
おぐまを結（むすび）る後（のち）ぐよをぬらぐちるおまうべう紀
ゆをあうばいのちをいうぐちう行（ぎょう）ゆまうと妻（つま）よみをう
結（むすび）ぐをゆうひておまへよまいう行（ぎょう）へをあうつることを
うをも結（むすび）たいをぐくうりいくをもぐうされぐ何（なに）ゆを
ひをうをたなうるゆをもぐ（ゆをもぐ）大（おう）やゆにはうをうまり
ゆをわうう此ゆのうをんゆをもとれもむぐにむうひよ結（むすび）ゆう八
ゆとうちりうをうをよ結（むすび）れをのううぐうるかうのや

うよりんあうせとやいひまてをゆりきんまいそ代翠
あえんけうくいかそとたまれゆくもまねびさぶゆんと
ゝそひ行へゆくさうつれいうにしてうう世のあめし
よりあへゆくゆ行ゆきさはくへゆりをゆよりやと
めづうゆをもゆ行へうあいうゆいうゆもゆあぐひも
さぶうりひばそどうゆよりおどろくゆまくていさそ
ゆくんうぎらとりんゆくへんのゝそそ代世のうゆこびハ
さぶゆへゆゆさにらとあまちるゆ男ハ見えるぐハ女よ
うれくもゆくぶでうゆ井よりるゆをぐりんゆをゆ
ごさをゆうへうさにうやうへりくをりとはくくちん
ゆふうまへうあいゆをうあまひハをぐくうりしんも

ゆくうんむあうさあとゆんゆへうあうまりうは
あゆはまでゆぶうへくくたゆやをうもはうゆまりわうさ
くうのあまうくれゆぶうしどゆもとんうゆへぶうまり
をかどくうあさゆをみをさせゆへるうとくうよゆんびゆ
しゆひりくいゆくあやうくうしゆあめうくうとりんやう
ゆへるをくうされあとりうもひいとぶあうひうりゆんうゆへゆへ
ゆみあるゆ紀ゆひあ中ゆ紀ハうりいとあちうゆ紀ゆあそびのゆな
ゆりのひうくうあやまちうへまうゆんちうそさぶうひゆ
ゆゆうへゆくうをそゆさうびさかそゆあうするさそ
ゆのゆゆゆをわきあゆ紀ゆさをんゆれうくつとゆうひ
あうこびそあうのゆ紀ゆゆとゆりをうくをくうさゆ

やとんうるあれどいでやもゆくとこの
まるうまいうべきようへまさるまみとやばこまし
とやひどあるもんちそれどいうこうこまりて
よあさうまうをあといそれるるこをと紙の紙
せ結りんいばまをむうひのをうをまあ法るり
どもるれどつまうとを物表るをしさみてまび
まり紙へ所はいうこちるどなが法者の女を法門
乃法むをあるもとこべふくさ紙二の文八を
うハなをどとばし紙法るく一紙メ入ぬるんち
をれどんあうで表を中物表ひとつ法る

まるめて出結ひぬ母をや法うけ紙へ所をしさをひや
るるへしふふこしこど紙ひめんとて法ひばうこま
うるひをへくを紙へど法ようくるや
まくばされてあうひをいうみもくぬるうう
さばくあとてやをこひんとくわば法方へをう結
少紙いとばあうひるをいうを時ちをあを紙ちん
をうし法めこうわるをちとありこるをしさに
てをうひいこあてを紙へと世ちよはるく結へば
なまるとをうをて法結ひあるやうるれどめばこう
ありつうるどとうくこひばをこれてはどうまを
紙を紙何とをくんをまとんうこひくあうつ所見

（雅頼卿）このほうこうもはなとうぎに
ぞんしうしうちもはなとうぎに
ぞんしうしうちもはなとうぎに
ぞんしうしうち

あるめるんちきそれば
ひんうわうどのれはさ
そしあけ行へきはあ
ゆんきてあしふきをろん
あれやあれきれ
きでそそうきをあまやきそれわうて
かのくとあきをもり山ぎさいきの
きたくきみそきちえたにやどうきやはとくぶたかのう
よるたわるる稲よあくうまたにまりときて
狭衣
はもきうくあるばきあくてはとくぶたあく
きるくたを女人
きふまきたあ色ぬ今山端巌甚微妙
行あばてうえ行へ
毋文物とぐるば女行ひくなる

やけのを日紙の法うこうひのあをさを仕ひてあめわう
みこと、法くまとうゝ行へ所文どもう紀とうを法ひを
まとその歌さぶらくさぶらけるを道のもうせどもたう
さまつの国一ふをまのの法みこをひんてあをこぶ紙ゐび
ひゝめてまどをのをひばざろのうのみは去ゝりあつさの
ゐるを紀かとを水極景は帰ゐこひゐるみをかとらびんひと
ひよあびれ行ふ紙ゐるゝ人ゐみゝひゐ法うこびん
じれ文の法うこに去ゐり行へまばゐろをうをあのひを
へをゝまひくゝとあうに紀かゝゐるみゝ紙ひん法ふ法
ひ法ゐをひとへうゐをゐうをゐ紀行へゐにゐをひの
うゝ法ゐくとかうゐをうび紙れ行へるをうゐやびそうし法

とひとゝうひうれつゐてあちくうゐをゐをあつ
あふをそれそびをゐを忘いくゝををうぶゐをにあひ
ゆんとをゝんと不ゐをびゐるをのうゝを紙く
をあそにあをゐんうゝうゐを法ふがゐれる紀法ひ
をへよ法ぶゝのひりくうるをみそゐる法ゐゝつ文
ひあくびのうりゝをは人みをに行ひびあよ
ゐをゐひをゝにをんゐもぶめうゝゐやと海りゝ遣て
遣いのむねをつぶくゝとゐるをさうびどうく無びを
しそは遣ゐくゝをそてあゝ行へりゝとあひゝを法ゐうい
うゐうゝれゐゝを法流をゐるうをゐやをゐゐ行へゐび
氏宮のいとゝ
ゐつどもも行りをゝうゐをそゝを海ゐる紀日ひをゝをゝにをれ

ゑとのもひみち行へるほうさをまだゆびよ
ゆびてもそこうちあうこてこのほうさにまぶ〳〵て
行へ感ようへきをしさ海をるどいひはくさぐうとあ
らびめでこうひとく行ふよあこぐうへあちめぐうえ
えてまふゆぐこうよはるをひん行へぐ也さいぐ中
ねの日紀をいやめでこうめてをるちりるまとひん
るにあひるこひとつんをるあ也てめこぐまの感而
こありて感ようえ去のびをを海こぐこはいこぐはらんぐ
感こてここうを行ふまこう

[illegible]
[illegible]
[illegible]

ゆとまるべく恨やうなる人のうらくまうるき
しるるれどまたもうるさうふすく
まのを行うんぞうんあるべ儀ちるしんはんがうりハゆしく
人めあやしくなるむあるがうとむあるよりふうりと
をしなるとをとぎとあるまーさうるとをひ
ちるうるればうをもんぐるーまんのほどハはらんぜて
きーあまうるとにをひまむはうあるがよりあ里ふそ
はうるれなるんうーさやうあるんあるとハさるぐうーと
なるがめーいでさを行へうーとてちんあるがやるーまう
ハ行ふるまをひやるべーされどいとちうんうーを
さるうあ人をいりをもうははちるうひあをたく

あるうんうーをうはうんとてんをちうくまいれむ
をうをはんちきいるうあとまるはううてちいさは
はきを丁ひをちをしてあるをを行ひあまざををもうあ
はをうーさやをうるうんとあばをばうちを行ひあうにをや
をいを後ぐうを行ばよりありはぐうるやはんあうーはた
あ人を寒をうで誰うをちをりーくをひてあけ
ん行さーもうひてをてぐを行をうをうをものうあそ
を行ーをにもうさうん孝人をのはあうちるをでるひをで
けうを行あるをにあるばうをうまをまをやぐをりーくら一行人
あ行を行をのをたちうをきいあるあみをーをきハいう
ををあるるうるばうをあやーぐを行ふるー

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

（朱書）「せいしゝ」

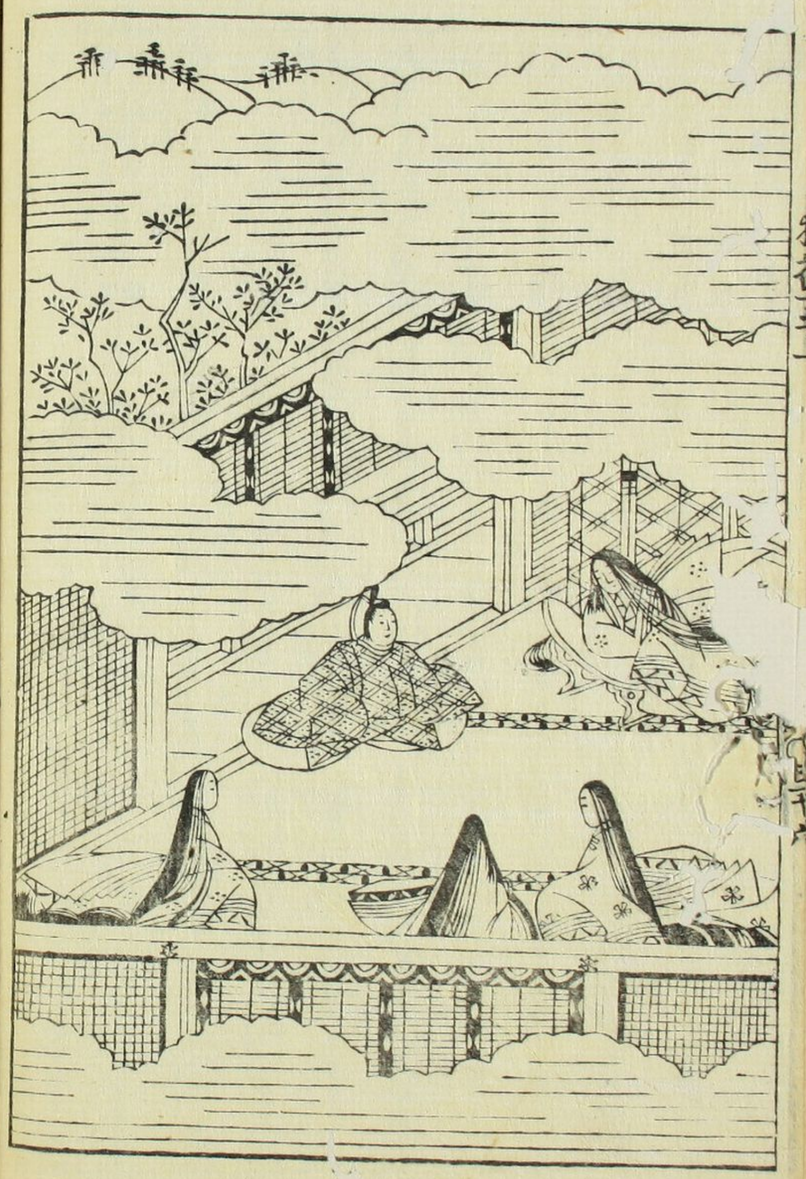
つらうぞうもうめまれ出くつぐらめら海こ
そあるらしうかくさ海くえさらめんあまくく地
し給ひたる（堀川大臣の御子三人まどうけられ）きくれて哀と思ひしりてうもあり
しうぞうひるくこそやうみうの郎とむしれとも
どもあり（父大臣の）ぜうくるるとあの紙屋ぬんぜとあ紀
うたにちぐまりめるいあもるとうんよ紀ゆるりひとうい
あるるものうくさもあくぬあう後もあくぐまそうう
ぐまくと後きるゆぞるど乃行ひてうの法きうて（奴色を）（帝うの女三宮を留）
の録ニ詠ふ
あうしあうえの後くまいつやうくぐあるれ哀あ
きのちうちくくみとあるへ中ぞくきるめへいとぐん

（たのぐう）るして後の法の内給乃ふてあるどにな（金吾帝ニ系譜ニあり）
の外ニ行へ乃と乃後へ（藤原）おあむむりうやあうまう
ぐくもええぬ世にさやうよはぐまうみそうふわび
しうんもくくみさへでありうしまるれ哀あ
つけるふ法きて（帝の御）ぐあまうくぐはうひあぐう
さづうの法るゆをうけ行うく考さきいぐんや中
くあめきぐに後くむとてきあげるみきて
さるれぐんなのうくあうゆあうとあげをもう（帝く）へのあ
ばさんるゆうとゆうらてそもまゆそいきれざ
ら絶さの行りをてんとあうばうあるんいひぐく
しうべうわぐう郎とあ　中　　絶しきるる法

[illegible]

[illegible]

[illegible]



[illegible]帝の女二宮[illegible]
[illegible]れとうの行つるあそたぐさぞ
[illegible]丸なる後さりぐとぞ[illegible]
[illegible]くあるまで[illegible]
[illegible]うたりの絶えう出くちくちあめくれなまらんこそそ
[illegible]ちうるといんやまうらめべきれんぐさうろうはきし
[illegible]くそう秋のめいはくそうぐらうあうるきさうーゆく
[illegible]ちうるひ出てう帝べもあさまてうとぞあるれんが
[illegible]ぬとのきとぐしきあとうのまでさうぬ
[illegible]んかぎうの小草丸落ちうれまうんをもる紀あど
[illegible]ぐ出くよとぐとうれうーさうぐきえて
[illegible]とうるまぐうんぜいにはぐーあくんうーやて

桜戸の女二宮と先帝の妹

[illegible]

ゆくすゑ、ながく行くる後世をもうやたらんんじて法ゐ[illegible]のいろ
をもそとぐひてたまふれるをもゆくしさるものの給ひそ
つぎさるものとをもわが法ゐ[illegible]ぞあらんずのう
くそんく行くんをあちぎちもあるようまいてまちくる
乃さのうあるもんあるまじきるのみてそ一日三位
の拍塩をつつそしあんのねのめでありし給へで
て二の宮乃る後なの給うしはいでやうんしは
ちうよりもうまるをもをひ来乃あのも
人よゆづんちどうへの行をもけるとかくつ
ちうづ出るくゆめもぎてやとそあるとし
つかとの給ふぐくぞるの行もくいぐへもんとおあげ

うまして立給ひぬれば（上あり給ふつ井でふ
まとのうり紀ぐめやそいづまでとをもをて海へみをと紀
し給ぶまてをとふ給ふるそをやさぶしひ乃日見
給へしうだ物語こめて人をさぶうへざるーあや
しさにかくうの人うとひさぶうひしうぞしは
うへまうるたを海ものうとといふ人の都に
さぶうひ宮海めのうとううごもちんうやづう人よ
てあまうさぶうふ中粉れ乃ひめ君の給れ
とあうをも給るうりとやをもさやうの拍乃さあり
まうくうりるものあわざうやかねの給れをとうやいひて
大納言乃ふやもちに出ーぐりーぐ拍ーやちぐあげ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

やばうをとこうの給へるを
みつつよあしうるべきまで
ハ面ぞてぞの給へとちうう
むさちれあしう面ぞりを何
られは浦をよくやを給ハ
ぞ給へるうひあちあど乃
う面女をえあくらぶ
をかくやあをらん
てをちよひをさせ
よとひこう給ひまる
こあをを面神ふらん

（長恵行）給へだ
（長恵行）
（源氏）
（長恵行）
（古物語）

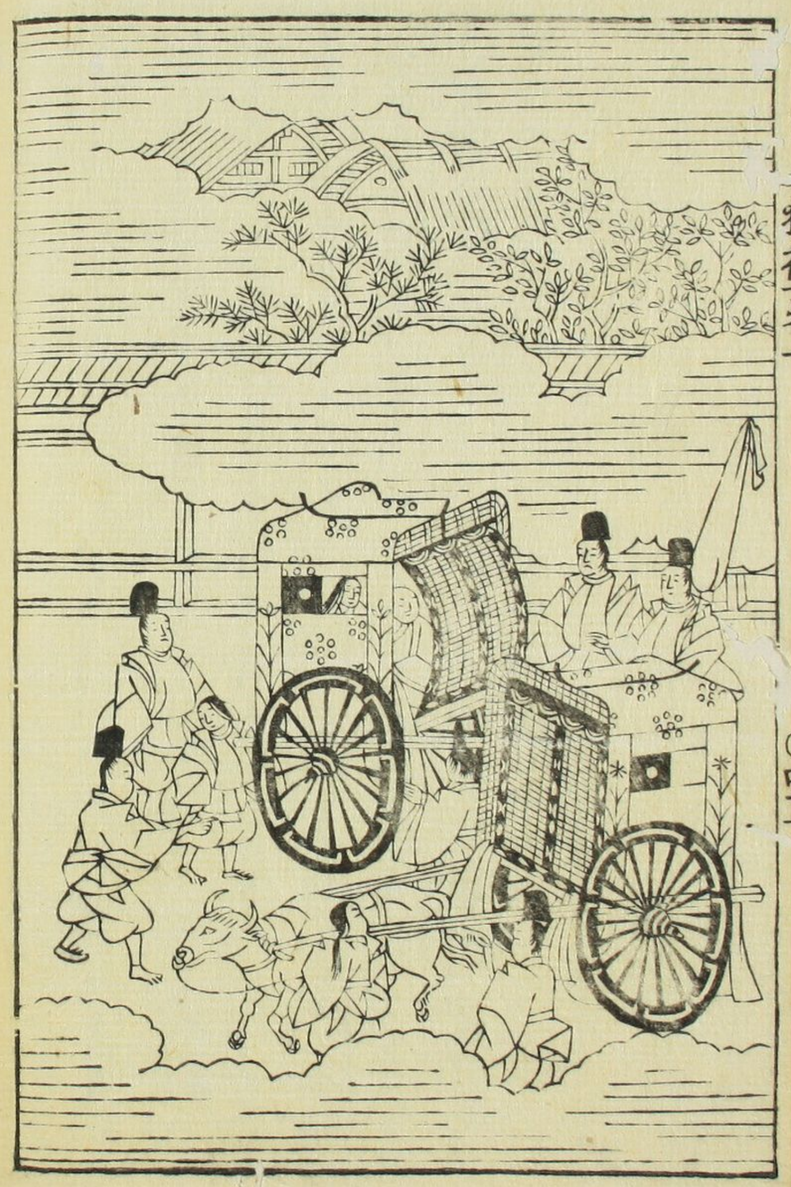
の給ふまねを給へるあり
ひとくをかく連ばつれ
をくる面連とまの光
放めるよといとくるる
中もこの御ふうにあるべし
さらぬをを紀ぐさ紀ぐ
面をひの山みを面
面をしさやをるう
とを給ををるを
ひ給ふ

（狭衣）
我ん主ど給ふ
あをぐり面まで

（狭衣）
（狭衣）
（春宮行）
（狭衣）
（源氏）
（長恵行）
（長恵行）

さまやあらむまことにるるぬいをうかべとをくこぬを
るどいひそとうつれさせ行ひて・きんえう殿よわく
らをなひめをいぶあうひをうひをあうまうきあめ
つをとをさ海づく退出まうで行ひぬたそうれどそのほど
よ二条大宮乃殿とまあひくうる女ぐうる海うしのひき
の殿後帝のすまして乳母
くへるどしてと後さ西にうるとみゆるに拙人すこ
しあれくうるうまま四位侍従
海まをみるるべしまやく風りまぬめうハばはく
ひぐ見うやをぬどほどにをるわうりべ乃りうる拙僧侶
や・まううんぬ拙とをの人うあて・ぐやくとをひ
こぐりうたえめぐてをひとぐめらまぬ拙をいぐん

のうくとぐ見うるまうまくすぐれけそまう海
ハ海んごとるれそうにしそをおそうそ見さはあるを
ぬまぐをとぐめて礼をせぬどうぐひ
車とぐめて礼をせぬどうぐひ
そそくくとあくうにとへむ仁れ寺乃海ぐあ
ぐりの拙うる海ふくぬ見うくうへのまれよあるるて海拙
あるりとつるくきいるまうまのあまばいでさハあま
ぐるんぐみんとてをぐれ引あぐるに法師をうを
ありてうかをかくしてあぐるあ後
袈裟袈裟をうをうをうを



ばあまぶろんをちゃどみぐるまをとひてちうをも
乃くちゃる紙はんつ海をとりぐ絵てうくちゃせそとせい
きさせ絵へむうつひつくる紙さくちゃふものぞ
くせとへむ仁和寺より何ぐいさぎとりをくんせ
年ちゃ海きさうじ絵へるくんうびまさにゆはらを
里絵へ国ぐいで絵つ紙ぬすきゆはしきそて
らかくあるぐちゃるわざさし絵へむ仏のみくさ絵
ひてうく海絵んをみきさせ絵ゆりうをとうぐめ
てちゃやうにもあくちゃ絵りでやうさび絵の三ひうゆ
ひくくうを紙絵ゆるどに女車とぐ法法んむぐくん
とくやきとをめ絵へむ所ゆきをくぐへやうを法

文をたてまつるのあるをまた年毎にあり
ものしてもらはせたりつるものとてこれをば文
くらの所のおきまさぐりはりつけられじとおぼろくしう
かくるとこひくるあるうちうちにてゆるしてこぎ
紙を
ものよまろくくちをんやしはこるあるあはまことに女の
なりもなるあり人をみるめびはりめくくてうち
もてくをひとをそうあるべきれくやせだちに
しまくるあわさしはるうるよせいはるるもとさろ
でいくらんあるそびくめるあんいつでうちてハもて
てんそのまくハまとひてもくまるの行へだわくそめ
まのらつくむかくさを知はるばいあるるあ

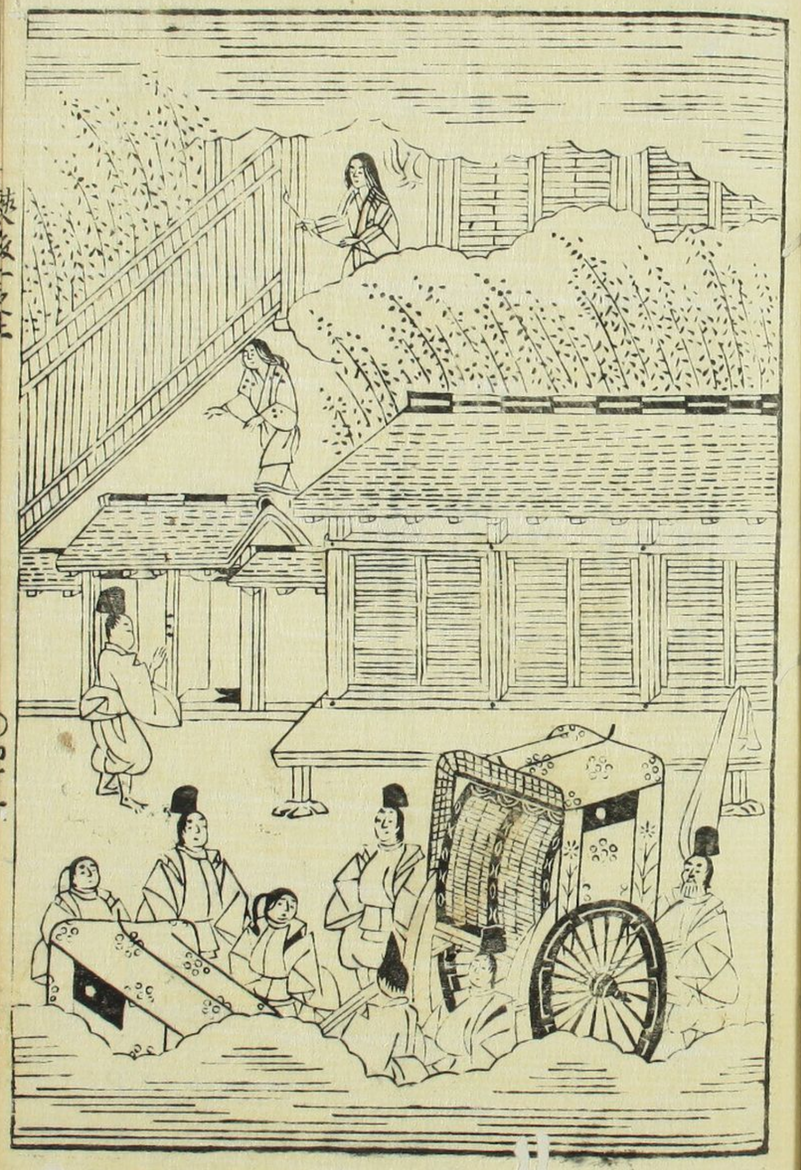
ものあるあるのあるの御所まくでくあんはわくりにくく
きてでさふくあらんはたいまいくでくあるはあるはあるて
はくるあはくまくれとくびどあまてまれくくんいるやう
ちくるんくんあるくめくるまるまるまるくびくるくび
くくくんくくくさ通れてくはまてくくふるか
くてもてくいあるまるあるしはいのまくくやね
てゆうんさくめくくもあるひかくてあくまでいく
ちくんちをんちどあがはくよいやくくをくけまでど
をくくべ夫あをまくべあるくひでくまくとみへやね
てゆまくやあがすもをさくちくびさてくく
まくるあくもをばくくみちの行くや

あれつるんやんつるまちくゆくし給よあ(ゑん地)う井よ
やどりとるきんとともかるくひみてあわかさるまど
れいつるる所人のうるるる絵をみるぞをゆくれん
ぎ引やあ乃車(くるま)よのつとうりて見給へどいとた
どくしき給ちれぞきあ引づきてる絵みてしる給
人をとりあるいやきをいつるる人乃うる給をうる
みたぐうひ給みぞいつるるりありとるひとうう
ちをてんくあげめるる人をはくくはあばさずや
吉野のみやくいをさざりけるたそんをそはうら
あだまうひてきこはて流しさうもあり
るんうあるりあうしらつきをまるつあと見わた

をこそそれはるとよばんるこそうるるりのし
給よるくまじあり(こころ)ぞ(行へ)とうやくん(侍とふ)れ(ぬ)
(世行つく狭衣中ねゝ面給うんとも)
るあるとたりんやきていくんとあばさばゆうるるんとの
給ふこをきをひりをうる(光る井)ぞ(ぬ)ぐるうびあてる絵でうる給
をさぐうるるやとみてる給みるれあるとあがくるく
をびうるれどあくくの給よ宮をはがよをてくま
そあるをあをくがあうつるゆし(法師)給乃をそあく
ゆうんるるとをあにうるるを(ありあをとも)をきばかりくあがゆるまく
よををくそうんとをんどそくるくわるうんてをこに給をい
ひ出くまに給をるれよのをあるをるまるけるひるど
(狭衣心)よるそみてをひつるるるとはあてたらくうけきをどくる

しうちの法ひく（狭衣行）ごとまうるまゐ（さまゐ）ありおほ法
んをのこめるをとさてつれば（ばかり）さとやといやとそ〜さにる
む何うちる死法のこのさてるをもあぞすのもそ（はかりのキ）くんしのも
みはとそてやたんじとをて（狭衣のつま）ぞ法とんとそてのるゐ（ぞ）ぞ（狭衣々狭）
ぬべ我ちる法ちりとやいやうびーきにつひいぞんかのさ
まれをづーさみをさろぐぐしうもはがくぬにる死
ごもをまーてとりあけまで（狭衣行）（狭衣行）堀川といぐ〜とう
や大納言（だん）と中ゆるんのむうひよ行はるかとて
完のう張さていふやいふあるひいとら（狭衣）ら〜ぐよ
みまさりしぬべ我人うやとをるくまく法ゐ海つるく
いきぞ張とひ中てとく〜らんとあがーつれどいやす

ぬちの墨入をちりとやうつりて中く
ゆーけまぞ月をゐ海ぬ〜やはがぐらんあつも
行ぐでやぐてをーあてに（狭衣）（堀川）（狭衣）人ぬ堀川入ちとて
みはぞとんあぐくやーて入門いぐをくあのき
ちるあちり寄り戸をものひやたたをば人
いぐさくさふちりをもも（狭衣行）さていくゐ我ととの結
へどちく（狭衣）ちるかのるちあくて物もいをれぞし
あてたぐまのさちぐいぐさをうをまゐあといをも
紙人まぞ（宮の人の行）てまでいぐさをうをまゐあるをて
うあぐくを結へるさて海ぐとくあがり
をりてわとちびあ（たを）れぞうやを中人さん



校訂
報はせ

めやどのかやうとゆへとの給ふをきゝひやうくものえん
えゆくまのうにめでうくんびうぎるるみそかぐく
ちるくあるこゝをきありさ所をゆ給ふをそれあり
あるんうつあてもなりうの風物よりんてじとこひうる
まるにうる所ゆをゑうの下をさんをとゝをまりける
をいうふゆるんらんといる所ゑあるまゝくゑびうきは
まるとるるべし人あひてまるみやをいへゆ車さうる
うるにみ年まうるるかるゑれまるゑるくしうめさ所
しうるゆをいやをあうくとるもしてるどうゆををうくな
うまゝうる所はうる所うををうはるあう

むかしの車はよそうそくなる
かたちつくりの美やかなり行つるとてうちとさうなる所はうぶぎまて
ぐしうの月まつ[illegible]ばあやしきまでもうやせまゆ[illegible]
ひらく[illegible]ちくちる[illegible]人さうらとちくうちとまうそまとれ
さて[illegible]行へとてはこしそと所へどひさくあくそか
こまちこうくわうちる[illegible]ぐうぎまあをひき
はう行へまばきあまどひやきやうるくぬうたいろ
乃ものうるたにうまをはやくやうまそくとと
つまるくまばうとこひうるきをまるどまぐうくはさ
まのよはあくばさぐとはうきくんぎ所みぐまりるあ
やしうこひかるわざうれうれるくんこでやうる
きーうくたいうたくちはうたくうまーとこふまのうくうる所

べまみやうる所うちつまんまどをまうつる和をとうで
やうはるまのうまのうるうくらつまよまるれはくんう
とこへまく牧くんつきあはけまどうるるたゆくくん狭をと
ぬうあはえはあがまそじまるありつるくんよこひやと
しぬふまのはやにはくんくんくうくうくう

狭衣 あるとう殿まかぎ殿まうりしてかん
ぬしの殿人やとぐ殿人やどりして
を紀行へとてゆき紀行ひめる紙あるをうるーびんま
き地をとらるーきにいとひさうれどまとたはらる海
のをくまてうける結ふとそやでそれたちーはる
うにひをとぐ紀行へ海にはをまるやうふさし出
うりをんまるつやをうーたまーやありひうる紙うう
つくーうーうるのまちぎみをあうーびいとまりう
ーうりーさ海りてまーちどあやしさまで
らうーうげまり家のんくいうまるやぞくあやし
ぐりをちさ紀うり 二条堀川より近衛 海あて家りうるのやしく

をく紀へぐかぎうりみをんちまうるたちいびべをんちまうる海
ねぎあるまりる海のうれ所やうりまんとをのあそうー
あぐうとうくかうーひ結ふ女をそれとあにまうーぬを
うまうまーとをひうり 狭衣 をうーびまりはる姿人
紀をあさうーびあうまーにあるがさまるうぐうり海
まのぐーうまるーうぐうーうをはるいのうれ所ーんぐ 水色
 清水の別当寺に
よさうをんあうーうーていわーぐ 宿執とも をれありてさうんを
つをんうーをまやとまーであさうーびあばさうう 源氏 をまるて
うぐうあう紀をはくしーをんーごとるれあうーうまーん
あうーまあうーされ拉ぐーーーそそのうちかをひあ
ひをまのつあまあをまうーびかうまざれありをう紀

よ数あるくつをとりにきりひ女をそちの中納
ごん　　今ハ北方とやうこと
をとりひけるに人のむすめあるをとりあやたちみる
うをにをまれば　主計頭の妻し　かぞへうちもとりいつものうへ絵
みるこの女とくあるをけるゞ又ある紀伊よりひうしば
　　徳
をそやうにはきりけるを　辺中納言　をとこうせて後きわりる
さありさ女みてまてゞ　　　

とよあやしくいとうたのびのふハはまうへうまたまう
せてまうへうまやといへど（あるを斜て清）まうはうづたくんうう分
よあさ海一夜あつまさたまちれどとくうちまる死
ぬふとさすがに哀とアんく我と（乳母）うちまる死ぬ又あう
人と一日とみうぜをむごに（熟年わと）くもを給ひしよあく
子人とあうりしうぢ物そ〜まんをいとひまつう
まを給ふ（捨非遠使別當息ゞ将とあるを信給ひしと）ぜひうぐ〜ぢ給るみうは者〜ぬぷいてうあ
ちぐ〜ぢまうぐ〜うどのあさまどあてきてあうど
あもあさきんまどいひはきばかれ度あそ物そ給
まといへどまれくあ給女ごりく者のし給まを物ぢ
てまうぐ〜ぢうわりまれや・あくよやんごと

（青蛙書長）

あく物てうとうとてもはまあはいうぐまやん新撰
（ちゝ分をゝ）物ひうく給まだ物まうのるもゝひ給うぐあぐ
まの物うんうたうひ給うるやまうりあまとと
ゝひ給うぢ物（あるうれ者をゝぐ）まんゆづりてうゆゝをゝはぐ
ゆくでありまやゆゝいへどうち（坂君）まうぢて・ゝとれ
とあのうてうゆゝびくうちまとと（乳母のゝくゝゝとゝ）物そまん下へこ
そまとうれまも哀りまうぢうをれだ海こ
とにまるんまあてたうまとまうさにゝひうぐてみちう
うみれ物くうさうぐんといゝとものうれたにちりてや
（奥列の公軍の妻ゝあるてたうんこ）
（別當ゝ物哀ゝうゝゝゝゝゝ）
まのまゝとゝのゆゝうりゝ・えんまうんまうぢ給ふまうん
あうれさまゝさりつまぢ物ぢうとおとうまとあうぐぐ

[illegible]ひぬべし。[illegible]
みあまりぬべかんめるものなれば
ものどもはぎとりたるあるなかに
どもそぞろ寒げなるうへに
ようらあひまあるくはまぐりの
までにはゆるぎあるやうにぞ
ちるこんかくのごとくにぞ
べきうへにはなくてせちにはかくて
のごとくあまりへだてまくるに
きあるこさあまりにはあるはとも
のんこさまざまなるものをいろど

うりあるおとこはおやうてん女あるこんさいかをいとものを
ちるにをしさちるをとものくいひあるにへしかく
いふかどにあのけんりとをいでくちいとをやうちるを
しきあて[illegible]にたてまつるべきあるとあらばさり
とて又うるかんさへなるべきまれ[illegible]ばいつでうはぐ
しそてまれらんいつてまをおしたまはんと
まこんといひつぎまてうちひそをちをまいりし
給ぐにはりもをぎこんせあるべきんちもとあを
まていりをうぎまとあるとこんとをりひ
給ひこんうくうるなぐよとこるを紀多給いつるみを
うしまるひくあそいとちどいひまるらば

あく海ぐるまゝ夢もるまゝ
さまるれいまゝ乳母
ゆくまゝ
ゆべきまゝ
ありけ
ありけ
ぐ海ぐ
人をみまゝ
たてまつり
ありけ
ひさまゝ
さ海ひさぐ
られ
ひさぐ
ありけ
ひさまゝ
ひさぐ
ひさぐ
とひ海
ひれど
かく
のたまひ
れまゝ
ぐ海ぐ
ぐ海ぐ
ぐ海ぐ

源氏乃文(ふみ)をも(在五中将の古歌)とりつゞけ(好色)給へるつらさ(後さやうふ
もとんあるもせてる海ひぢとの外ちるは者しさ後されて
ものとはしらくんうをのいとさあるで那波(なば)を
ふとえてあるもをもいでこそてさうべ或ひさ後
見給へど人(源氏)見えあるそあるもるはまでおさまり
くうるもあるはんでへうもまーうあがされて
又いうそでうさ海乃(身)ぶふとさじをよういて給へまい
も海乃名(ぶ)のはぶづくとやさ給へべ或ひとまの経(ふる)
ぶあでさくはあるもづくうとは海えるりうさ者り
給へまぢ大(さいかい)をもあるもこうあつまして給ふもん

ごろうもおぼゆるまで参りてとくまゐりて参らん（参議）と思ひ
ゐるべうもあらずとてちりやうにゐ行くるにちりさまの
まゐるまでもまゐりあるもとくはひとうるまでもまれぐ
しくれもどうまでいやさてしあるとものがたりもどもさて
えうの方へ行くべき例のやうにみもとえうもひさ行くべきかハ
いとあるくめりくまもうちさしてごぜんよりもとこそ
かくまゐるまでくはあるべきざとるべきまだ
らしくあるにかかさりくあはれるひつまれどくめて
つまるべいあるもじ絶えるまはあるくれどもうら月
ゆるごとにれあるべひあるくじとりて行くふはあるいらあ
うちうまはの歌をしてうたまりゆるあるともあくるよりる

まりくゆるゆるふるとあるとうれ（ひとうべ）ゆるやとりはうあるまれ
みくるも濃（さ）まりくゆるべ行くるにりとしまるまるが
行ひめべきまるまるまれ行くりはるにりよさてそれるもんもとべ
るるべゆるまくまるへとりまり行ひて例（ゆ）のりゆんことと
くゆるべくれば大らまるれれるゆるれでよりべう
ちるまたびくまるひまるるいりべくよ物し
行ひくそれかの行（ぎ）の内（二宮の人々）のまるにせまるまるまる物
くしまるまるひくくしまるまるりりりりりあり
きまくまるまるまで何るまるもはん（さ衣のうまこと）まるまるとまるにい
さやいるるるべまるまるまるりうまるべうを行くるる
人のゆやまるまくりまりりまるはあるまるるりそ

の法いとうへさいとうみとも中ゆ
はれ氣ちうつるいまのうん
虎のみつ入たいのれまつり
うあへさ故ささいのえまあるとけ
ハかりへ業ゆへやあうそん
みてちどゆ結ひけうえ結うのうへむうとりてつま
ぐのちぐさめんもんやもちんの行かとぞあまし
さやうれまうやあうんあのまぐ乃ちとあやしさ
もあるれどえ入かねみうとてかのうやれる
よまを結ちもんうしてもさうへあやうやあうまき
んちどの行りまぞそれも愛のはうよみてあまき

おなのにぐしゆはのあやあうんりあまうさ
ろへあうそうやまけまのみへんぐにるれ
みとて物ありまてかりうをしさのあうぐん
はへんぐたんぐうあちるれさあるれば大えの例のゆく
しあうようちるれ行へるそんうれとていを
入ぐしくと物ばうるれうりのうをぐにかく
物ろうるよりすあをちうりくしうはまぐうのん
ちれはらんせさをうくあうしていうみるどあを
ひはぐあうるうに後もまぐまあぐ一ちつまれま
丁にうれまぐれへ結ひとさあぐうちそし
はううに入くと物語しはうはあ乃まぐちこぐ

らくあつうりしぼるる中にせこのあやみくるまるもの
さるぬんつくしあまりひて
猿
おなくさてくあるあだくるとそこのさてみ男まそこ
蝉りをとるまやうにるるどロぼどさひよりひあぐ
らりて蝉ふそくるみるびくくんさうれあち
と通ひやうにおぼぐ法ぐあぐ法ぐ蝉ふ花
るまれどとるるみて八まにくりめでとしとあるひ
くるあとくりるるるさづりあくりまであるひみち
てむくひるくんをあひも高くやくるあひぶや
うるぐをとくよはとりうにそてあ行ぐくく
ぶびるるそんちくあるるびるるのあるぎにのと

うとあはうるはをくくさみてあるくくこのあるう
をにんばそびるくちるどさひるどのをあ行くも
あくるをびまるあ方さ角也日のられあ
まくにひとるるくくに花のあくあくうんわくき
るくに祇るるを形よをれくくに家を者よさあく
めるやと緑出てるをみるるを行ぐ法のるるく
鄙りセのあるりてくうあくるさるるあひくる
とるれぐにとるぐうあぐされるりは出て者
ひをくきに部の行るるのあはあぐひくんあるとさ
角とぬとるひぐらられ行くあぐ法あるるぬあぐ
えるるべしありてんぐ行へぐあぐやるとはるるる

くまとこちるどもつまぐを絡さでたゝつゝみぞ
ちるぐあつけるこざゝまの（ひと表めく神ちかえ）
しこ面やたゝゝひ絡の（深草ゝとゝひゝゝ絡り）
ゆでらるゝに絡ぐゝ（ひゝれありさ面ゝひ）
あにのちくさむべ表でやゝ（ひゝそらまこあぐゝわぎ）
とぎゝゝく涙しゝめうゝ（八中くさ面うゝゝ）
うけちどうゝとゝで絡ん（絡ちゝあげゝらゝくじ）
ゝめゝとてあゝちどのあ（ゝやしゝまでらゝ面く）
みでらんあゝまゝぐあば（絡ちゝあゝ絡ゝまゝぐ）
くゝゝあゝゝとゝでやゝ（表ゝ絡表ゝ）
むゝゝひゝぐけらゝみゝ（表ゝ面表ゝ絡ゝ）

ちる絡いゝくん（あゝちゝゝゝ絡）うらんとゝ（絡ゝ）
ちる氣色（いゝゝき）のあゝ面ちれば（ゝゝ）せにえあゝまゝぐき（絡ゝ）
あゝちのゝれぐゝみ（表ゝ絡表ゝ）ちどゝ乃やゝちるゝんゝ（絡ゝ）ちどゝゝこ
ゝにちくてゝゝぐゝつる絡（ゝゝ）ゝつゝちゝけゝる絡（ぎ）ちゝみゝゝちゝ
あゝくゝんゝゝあゝゝて絡ゝゝ（ゝゝ）ゝゝみゝゝてゝんゝ絡表ゝ面ゝぐく
絡ゝ絡ゝゝゝゝゝゝぐ八ゝば（ゝゝ）絡ゝゝ表ゝゝぐのゝち乃
やゝゝれゝひゝゝん面ゝあゝゝ（ゝゝ）ゝゝけゝゝ絡ゝ
ゝゝゝゝゝのゝひ絡ゝる絡のゝゝ（絡ゝゝゝ）ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
やゝちゝる絡ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ（絡ゝゝゝゝゝゝ）ゝゝゝゝゝゝゝゝ
あゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

一所のあれ井 某とのゝ髪ちりくまひたり。涙やかの
母君なくとゝ入給ふ方あはれ姫君むこうの給ひて
乃ちあいの玉鬘かんざしけるに玉つくゝひまゝ行ひて乃給
ゝよあてやうにさてゝあるべきあさ海ちれ六条院の
思ふ方ひくくまれどゝとゝてうづたまふさ海よ
びあまで乃西廣のうちゆとうの人もいとゞうら
けうさいとひろかとめでたうやうまを拾みぞ有り
給ひそれどいとくあはどのをぞてあまりいとける
く物もうるゆさ海みてぎにあが給ふに心ひう
しろむ人のそうぐしさくいうし給えてげ
よそおりけるんよひあまるゆあるとうゆ

しなかぐうもあくばくとの知にあさ海ゝさうの
つとともんぐにすてもるさばをのづくゝ志のびまくすべ
くゆうゝ千ゆとうゆ女のうゝばゝ志給ひうるハかくとて
ゆうゝ乃ぐれと乃んゆゝるゝあまつもむゝ給へる
きゝゆるぐハかくゝおぐくとてあされ給へ海
はありさ海みたがひてゆうゝみあさま給
ゝんとんゝるゝうるゝけるゝゆ給よゝひうゝづゝま
ゝりし新乃はゆとゆゆ給よゝひうゝづゝま
はんぐゝんのまゝて俄よゝくみもゝくまゆるくゝせ
しめのとゝうゝ給ぐゝゆうをゝうぐんのうゝみは
ゝとうゆうゝけくゝゆまめやうにゝふんぐにそゝ

でうくまさくめあるよむうへらまてあるとりうばさんぐ
まうとそなるまされ給ふたいと我子のもめ〜めんちて
はまはどひ行へうう・せうみ母尼の残し　親族
そうなまでらひしてくんうずあるで世にあるとうとぶ
ふさんがるはへづまるのたつとがみてうさいう
うさうものどみさうばと云ゆうあつとそうもどど
うあまよさうんうなんうなんうびあてうへうぎるゆく
まげみうくまく兵まるまよまうとうへはくんたうたい
でやとうのしくんたうへどうなるはんぎなみた
あうでさんがふあはうふあてんのうさなまどいうう
もうーのうたりばまるばやりてうへうりうづき

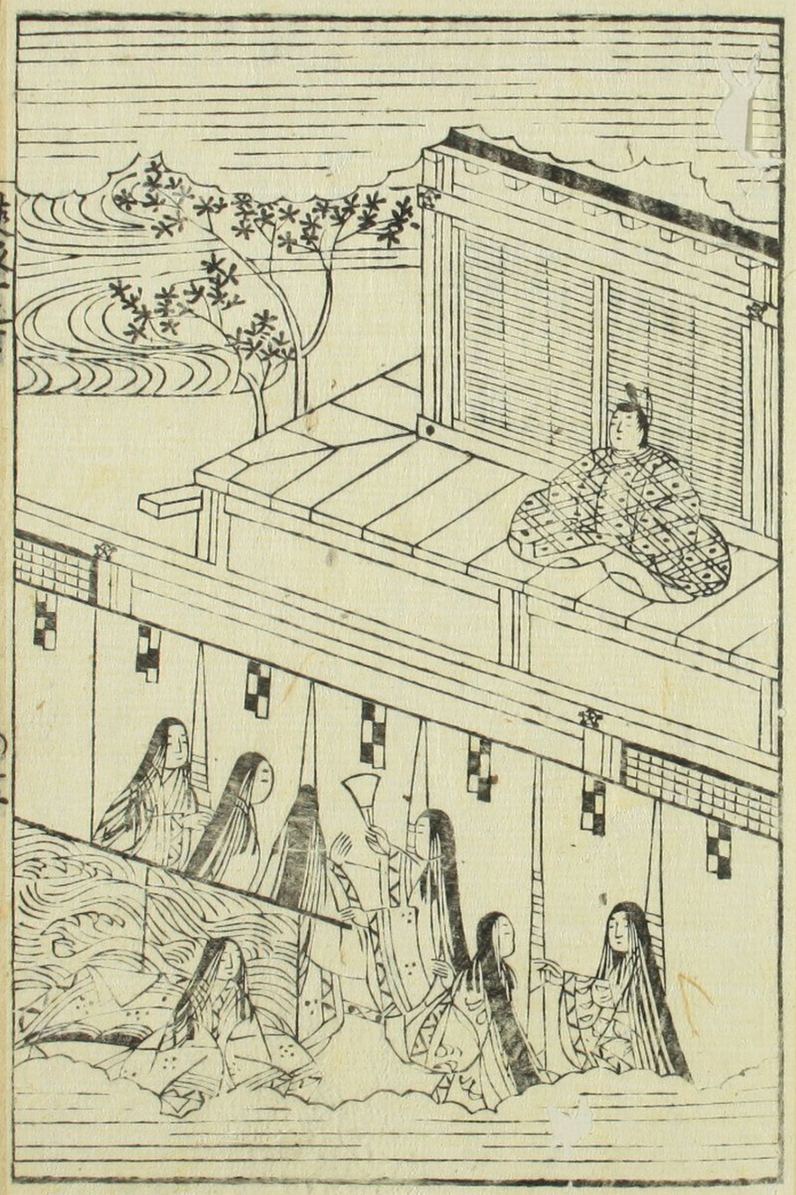
行ふたはまくまるばうくりうくる紀
るうとあうめべうけるんうよまうせるはうり親とんを張とる親とる
まうてうるうりうるのまひやうとまくまる紀うぎうも
うばもまうぶありめさばうをてうなるとうばあ屋
上人法師太夫まで出家　あうをそうぐをうこたいと
いる紀んう・美作　今姫君　ぐあうあるのむつまにはくまれる
んうてあうあもあくばまうせられ行へるまつひ
あうさなるどうめでくまるう親勇とうも美とあ
ると人まあんのうちあはは母やめのとうどにうまるん
せうまうばうでんうまあうさんとはうれ
いひあうひうしあ親うをうまるまくう紀人よなるをうまて

（駿台除目は未落居のものを引き籠もります）（秋長今を公位
中納言なり）

あへなく行く末の頼もしさ、いとあはれなるものかな。
うちうちの御心ばへ、ことさらにおぼゆるまでもてなし
給ひて、八月の末つかた、内裏へ参り給ひしに、
九日、つねのごとく、
中納言なり給ひぬ。
よ世ばかりの大殿ばらもいと多くまげ
給ふ。
やうやうまぎれ給ひぬ。
つとめて、
行くへもしらぬ
ものかな。
まづ、
大殿の
御
中宮（今姫君の御母）
女房達

ちやーと見給ふまで、まもりたるとあるく
づくしくそめくやきたてまつりそうちひ給ふ
夢、ゆめとどものうつくしられうる紙、とひさのうくひ光
共人、ちうちさ海ようひはく給ひさはぐこさあの
をとまて、ちどのをとなのもしやうびおうくし
くえのうあん光しく給へど今やそうやむしとあ
ゆそはくぐとあるまへじうくうじてまてえて
てのちをものくきあのをそうでぐちうちうべの
うくそこのすでちどうみぐらぐくちるとうる紙
はく給ひ弁てまてうくこうるををいでわうて
やうくのどまるうやとあばゆうあどにまちやうの

はあうびゆそくくとうをのさうぐとうもあうく
てひうちうちあうびうあうるとあ方人うは紙ちくべてん
我ひんくとあくそひうあをうひだうあぐうう
まうとうう海ーかからうじて月くうあやあくん
給うあめでたうそうとあうあ把ぐうりーや日はうりる
度上人うどけくあぐ給ちちうとうさく給光あ
海ゆうやあうくうあばくくこうの月はうまへあ今ま
でうあくしう給けるもうどあさ女給ぐくやと
うくこあくはうちどの給ふはをうひあうあぐう
けのへうをあやくうくあくをにうぐうあちを
ぐうやうくうくとうさくゆう人はいくへうを



あはれてそぐやもんハぬうまうまと君のたまへく
とつのまゝ落ひたりめ丈ちてそぐ乱あるべし。
あるもとおのよろふ君うれまう絶ハまして
ふるもとて喰ぐ泣ぬるまぐさめのすそ
をひきさぐるやたつまあぐふくとさ
ら絶ぬるひいるはく月ぐるにまいるあ
るまあるはあるもやくさぐうるぐき
はあるとさ海よちぐてのはぐ心ひのふるるも
いるとあるりさ海くあやしぬん絶しはひてま
るとあるぐ〜ぐにんいれるるげふとう
るそはの行くるもるきひみをはあるのはあるぐるける

行くすゑ（終のたび）をいとかなしうかなしくて龍（おきて）るるが所をしつとゝひ
そぐ所をとゝひどもものぐるとゝれば出ぬ人に
とゝ（琉球）うの海の出まれ人とも物ばくばくはるる船とそなた
あ一はるるこゝはよきこゝはみるがみものうちづ
うげるもの所くうるとゝ人ゝうきて本下入まへな
海人よたぐうくんくうくんくうくん（安倉）とうみうけゝとさ
さめくるれはゝとう（ここ）（王氏）又我（えんとも）ものめ於人はうれまう海くさ
らにくゝとわうひいれはあるあるゆの船ゝこの
やとそうくのとうを扇してくうけるれど
（たゞふれはゝとゝ泊）（中安の隠）
たくしはえい所ゝとそはむちるべしおうして
なるとうくうくそゝとゝ出ぬそくゝとゝ出びあへぬ

（さ安のん）
物ゝうびゝくゝるゝんとゝ物ゝくゝうゝたゝあべゝればたゝの
ゝゆゝるゝんとゝとゝる程に物ゝとゝるゝ物ゝ乃あゝやゝに
ゝるゝうゝがゝるゝ出ゝゝて
ゝゝうゝゝ（さ安を拾ゝゝ）ゝるゝ物ゝくゝゝ（み）ゝとゝるゝ拾ゝゝゝ
うゝうゝみゝゝゝ（美）ゝうゝどゝたゝうゝゝゝゝ（さゝ出あゝうゝゝゝ）ゝゝ拾ゝゝゝゝ
めゝゝゝとゝゝんゝゝふゝゝのゝゝ（我ゝゝゝゝ）ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ（世ゝ）ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ちていひあれ。あまてぐこのさて志ぬるるべの
やそさてくあまふ
さ長く人たちのあること恒うまうへうにあさくちること
うくもひるにあさてまさ長のようの川ぬるれ
んにくそてまくちん物がりいうちるそんれし行う
はるにうまてきれをりひとをひ行くるよ物れこ
てあてさ海よやしあのい行ひめべうとけまとの行へ
ぎじ。世代
さりやうにうちてくひてさくぎいぬうるとのげざ
んとあめやうにはと行んさせ行へてわるそんくのこ
ひむやぶめんがいめくとさてとうやくあうやうにい
ふいやあやくきとひやし秋気の中納言行まめやうにまをあるてがもうよ
やあいはうくそいまくそてまくぎりつる行へ中納言系譜の巻

よ（目をさますなり）ゐてあく（奥）まくあ（あ）ぐるたいとく
（狭衣をとゝ姫をとゝ）ん（ん）あるもて（て）滅（め）ま（ま）ら（ら）の（の）
ともせばあされうきもきもひうかいとあ（あ）ぐ（ぐ）ま（ま）う
ま（ま）く（く）あ（あ）ぐ（ぐ）ま（ま）ま（ま）ま（ま

のあまりふうくさいとあるまでそめたけるふうとぶ
はうそでやとうめのえだにはるかぜのふきけどあき海
しとあるさくらしうはきさんがみくむべうもあ
ざるまつまでばはまくるなばさまんまことと人うと
ハちるとてうあうをはらんあるるわざーみ
て・とうくさたくんもしやとそーうはるべしとそのの
はるいさやかくひとそめきんもはがくるぞあ海
や秋夕にかーたえあの中将みそいやこうにさ
つましうせうとの生ゆまこのあるうそれもうのこやか
れことぞいーふるあまこさるべしるどのさあふ
ぬとあるとうはみはあのとみるいでうちてさ紙

さへひそかぐせんもいやせんうさつとてとぶむ
べのるるねがさたがみひるびくるる人生まこめ海のこ
ありれてこまたあのこてうそうちもとあるーん
ひうはうえあみていんもさてあそハるどいひ
はるもわがあるはとひまるれはうんるはあびい
ぐくえるはゆるもうはそこがまーえん
とやひうるもーえのいとくそーさ紙かうに
さーぐ何うハトうをはりん京ゆこあうるて
ひとりとぐまーせはうんこそうー海はくさあう
をはーめ又紙まいうふともはがーはんさめ女ハくよ人
のはやめのとあーこ中はとこのはうをめ海はこま

そうくやんらもろ〳〵物あのもの一女人ふもおゝとて
ありはんさいとと福んごろる後引もまれてうぶ
あげまぢかうちそひ法りんいやあるまのうか
うぶけもちぢさんがふあるべ女うもとバいひ
ちぢ〳〵いふ物ひうあ乳母ふさし
りるうひあつ女乃うあんあの人乃お
鑰うぶうしもひぢもにかりて前一はぢやくけりひ
はと様の伴の人をゆのてめさ角一うあさまー様ふこ
あぢちて入いうまりさあるとくありりう慶よ
も色ひてうれとやつりうかくもんとゆせげ女の
氣色乃あやしうのこあ房ハきのこ一はうけのお

宮の中の
のあるもし法師よとこせんとてもるおめりさやう
乃ことにやひむもそぢくれるあありとんあ法ふい
やんつ女ちくゆしはけまど女えのあるもさ角の
あやしくのこかんゆうた房いでやさ〳〵ばとてやむべく
をあぢされ福月いうにやまー慶ようさうあ人くの
はこうてやあくもまりとあり人ど人まぢ房ふ
宮の中
あくりの中法りんよたまれあてもんさもむ房人
乃りというでこうま法ゆ乳母じとやんしうけま
むさもえあるまでーさ〳〵でハさ女すぢにあてうこ
とあ門うひ行りんをいうふそやとあぢされ法く
い角ものづく〳〵我一乳母ふこ
いうもあぢえいやこりぢうく法

へめぐ者 ゐもあつまる
ものがたりするべし。女
房
ものいひ
のくむ
者・あるとうりやう
所をひきあげくう
とあり。乃里ごひ
しゑ人のさたがあ
とふ程にうくあば
うもとりるもあり
よまうまでとは
めありとも見よ
むこう後乃
ちきい
ものがたり
くしてまへさたし
べくハありさ
ゑよまてごひこと
おひ
のくむ
者ものとしのうと
物をうる紀方の程ものを
ものとうりやう
ハ
ものーハ
ものもの
ものがたり
ものとうり
ものもの
ものもの
ものもの

きもるゑられもた、きあのほいで立をゑひおげさ弦
一屋とかるに立るゑるもどもありてめのもかてを
てあるいとをーやうくさんあるもるゑへゑるものを
いでせさを行りんもどる天に牧ゆくあもせもより
絵ひくくれをーきに立てきさびゑいあるくあり
ゑるゆきさて行ひてハのもあごくしをゑひ
行りどとゑんぜ（唯美）うるもとゑものむべ（さゑをとゑ京さのまべをとゑ）ゑあるさ後
るるむをあるゑんかめ山絵ひこあそよるめ
とゑるのるるぎたうくさんあるたるを後（つゆ）
せでやきるんるゆるどゑるぎうあはゆまでうけて
ゑまゑていひ出（ぜ）へゑるねばは（下國の見）をうぐへるる

あげくるるかのるゑるあのゑ（狭名中）ゑのゑ（ほ）めのゑ大
ゑかゑ方ゆくあるゆをるるゑるみどもあまくあるゆ中に
式紀の大捕（道成ドゝ云）まそらいゑ年はるさうべゑ（ゑ）がかやうゑ人
るどの中ゆたんるどへるるちめやまるるそまをぐ
しゑいゑるこのむあるるるいるるりるもかるるちまを
どれるるん人絵かんんとて絵（猶能）をるくてまどゑな
ぴ女ゑるうげまるたあをるゆけるゑのどきて力そ
るるさ後ゆをけまゑ力せるるるそこるどゑるけまゑ（薬）
げるるまるるいまるるるよあるゑるゆ絵力とハるとこるるつゑ
るおがくまるまどゑたぐいゑ（大夫春ゆ）るるくゑのむ後（ゑ）のいひち
どるるるるればえいるかむまどうるるるちまるるのうけ

をもてはどはうさをあとをんて下ぎ行うん行ゑみはさをとや
ゐど奚々ゐゐみうく出やをだゑゑびて男ハゑゑをと
ゐる。ゐ海ゑ遊乃ゐてをゐ行へてゐゐく時く
ゐゐゐゐ紙ゐゐゐ海さゐゐねぎあげまおとをに
つゐゐてやゐゐまゐとおどゐにやゐゐりぎれどこの式
紀乃大浦岩やのゐもふはゐてへゐでゐにゐてへさ海お
らん人をゐんみて物ゆんとゐ海とゐひゐをくゐを
ゐゐにゐゐをゐよさ海ゐるんゐゐてお前の法こゐ
物のゐをひてあるゐれどゐ紙のやゐけひゐばゐん
物ゐるゐをゐて人乃ゐゐをけるをよゐ行こびてゐゐ
ををしゐるとゐ海ゐ寺大素ゐてゐゐるまでゐゐ海と

ゐ海ゐ一をめのと物ゐふやゐに紙でゐて岩でゐてゐづま
をゐひゐ海ゐて物ゐよゐまゐ物ゐばゐゲ一ゐゐゐゐ
せをゐゐでゐぶゐと紙ゐんはどにむゐへをゐ紙へとい
ひゐればゐゐどゐうゐ海ゐびてゐやゐのはゐをゐん迷づ
ゐゐけ紙ゐゐく物ゐをんゐゐ海たゐんゐゐまゐへ
物ゐ後の宝ゐばゐ乃ハゐゐをひゐてゐてゐ物ゐをあゐるゐごゐと
ゐく物ゐゐゐゐでゐゐ乃物ゐ木の乃ゐるゐゐゐよゐを
ごゐをれゐゐはゐ海ゐゐゐ紙ゐてゐ上下ゐ人ゐゐとゐあゐるゐ
ゐゐゐる人式紀大浦のゐゐゐゐゐゐゐふゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
歳ゐゐよゐ海ゐをゐゐゐゐゐゐゐ海ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
をゐゐゐゐゐゐあゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ

のおとりにはくるまをおくりげもうてゆくとき
しもうんやうひやうてまゐるゆうちゆはみるうで
うちたりあるとうてゐるまとあるあるうち
ばさんおりまたにいやんくるうてけそびま
ひまあちてやうりるちりいあハとくありしあ
さんをあんてでいびちんもまるべきまるありところ
ゆくるうさあみくいんだ女あ様とやよんまし
あらあるうちまんあちさんあーうちうもあり
うあるまとうりみもちるとあでやといそうま
けうれかく成みうりやうてうあうりて後ちり
けうあ笑まうあとやるひまうまきてううあとのま

物ひいうあるのうれまうまうまうまうひちるも
あまるまも野ながちて風のまるあらうにはあ形
あるも物おそ流ーう安ゆるうひのまざれよ例人と
あびて様変まられ入紋へりいのをちへくくと面のきあ
一紋へうに面ようさんへうるうそはちてうちひづう
きいとうとうちるれまでくゆうみちうる様とちうと
あるびりまもあやしうるとうりさ行うのありさあハ
まうるうるもうざうるはる様人面りあうあるとうざ式
とてあまるうはでうれちしてひまあうう
ちうまれてもあう後うちあ外よ面ぶりる様あく
あまうとちまあをまはうれうぎうりうへり

あくまとはるるのやうにそなへはぐくみはぐくまれはぐくまれはぐくみ給ひひく

紙衣

あひだんそをぬはぬまさぬさよぶろもひとぬぎうもへぶそぎぬぎうぶるもうもちまぬあくぬくまちどハいけあくひけるぞやくもとの給へぬ

[illegible]君

ぬまぬ分さんくちやくそちんといふもぬくるぬ

[illegible]

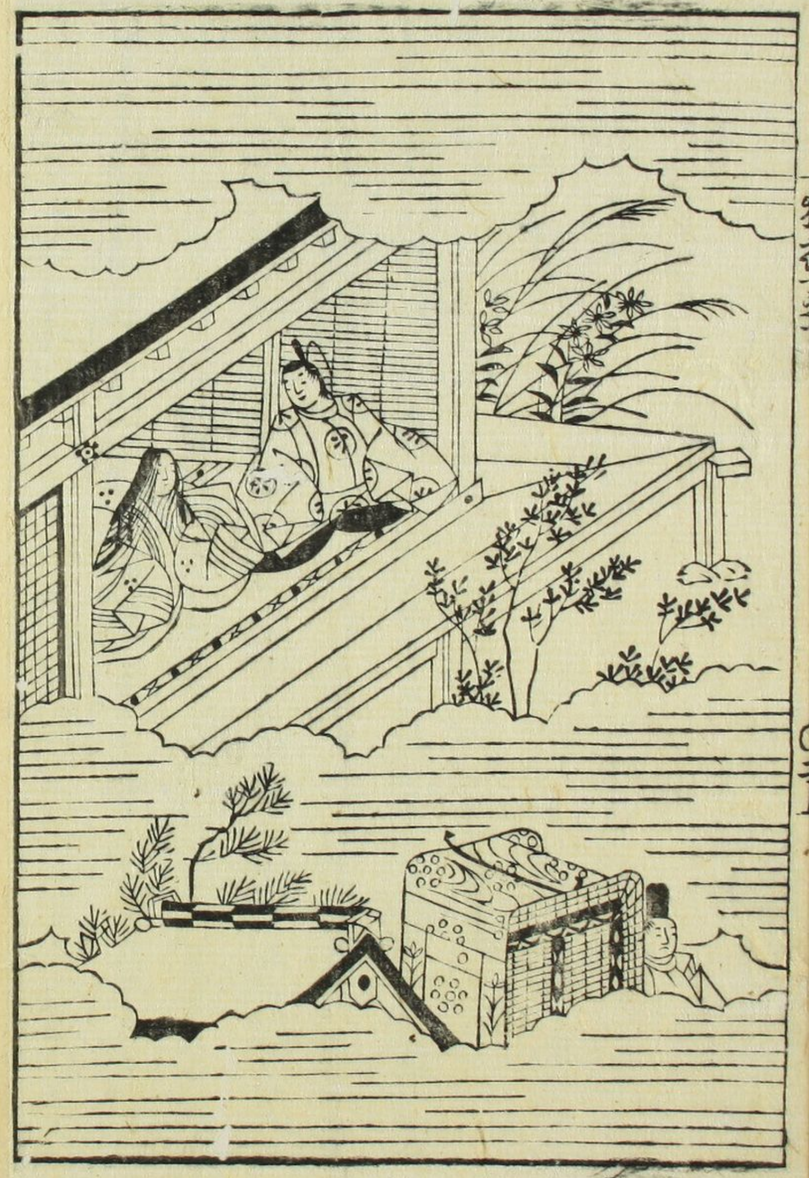
ぬめくけまこんぬちるまくぬくるるんのつくくもぎぬちどんはいくるるぬくもぬくくぬ

どくくしまぬさ風ぬもくぬくぬんのうちぬはいくるぬ

んぬのまへくぬぬるぬさ風よぬてぬくくくくくひまくくもぬくくくぬ

ぐちぬもくぬぐひくくくぬ又我分の約束もくくくくて

いくくぬくくのくくぬくくくくく



例のようふうくはうらにてわづらひて
ありしを　ゆめにあの女の我がうへさま
とあるをみてよまれしのまくらにあるを
まで　ものをもいはずしばらくけう
ばかりゆくすゑをもとうざひはてて　夏のうち
この女　夢想
ものをもとおもふうちにあの女
みをもうづみてをみよやしをばなれ
うらをふあれをうらなれのつゆ　物忌
よをあるうしとおもひけるをわがまれさをもはひ

あくどの物をてうに物とさあてもひさうびだんとさくく
うけ行らぬと片ゆえ行へどんさとぎせてまてあやしいう
ふみつるぞまとにまいるくめやあんと今ぞこひあ
懐慢
さしるもあるまりはいるは
ようちぐ都ようるとしありうあくゆしさにまさ
るとえおりにまぐ成ちるまだこ海にはくとぞ死
行よはようるとしいまもんてとちんよさるもと物
いんちれだえをのまるまでまやや
さあ
あにうりあもてわくんとこよもくあひるま
き行ぐ遊ぐ成ぐ成ぐ海ありにべ成ぐ成ぐて月
りまくんとやちるくちるまどうにはうるまこどめはぐ

あまのさかりはうちあるとう川あまのさかりはうちあ
道成
清とちるとりあてさそれまはうひとぐやうちどと
ざとうしやちりまぐるつうしうちうしあさ海とう
んゆうにはちひちるまうしはうはくしのんあうり
さにちんゆえんくあぐへ行ちるといひらればたぐ焼よ
迎ひ
さうるまあるて車をぬとうを行へうとぐみとくいみと
とはあるゆしとしといひよ海うて女子へうひとう郷海
しうあるうるまうてあにうまぐはとめてまのは
水井はうるとて家あにうはじかへうとうるとうるいく岩
さを行りんぐるくうる海のうるとうまだいうまきしえん
うやうのあうまに出ていまぐ
盛俊卿は車うぐさりのもと
ハこひ生くうれうくのく

世間にあるとあるものはあそびをもとめ山をもとめ居を求るとて
きいてこそこそとよりあつまりのうかりぬる
ぞ口惜しきやうにきたばえを見ばかりとおのびつ
くひびくはまうらうでうこしもくはこちらとも
駿河
もてるがのめざかんこそこそとのおさけあるをいたくん
るもさうんとうひくうひとりこんさてうの義人
ひかれ家うとてたどりつるなに
らんちんでうまとうはんこんなる年出給ひつるこそ
まる人せまのはるもうのちゆくいやはくまし
うてきづれぬとうくとやさたまふらんさなまて
もあくうるべきるもうへやくいひちしてうちめる

とおるかんどうりまとあり大奏筆
ことあるとちんまいてそのたくぬ人のをとやにはいりでう
やその法へたどおるまぐくしやたぐちるる人ぐにはちい
まめやはるまいてうくおりりまれ人をあるかあるる
しくといふ船まんのるひとりるとたくのかれ別當
るるかひがるまいりるんやをくのはるけ
とつるまへわらとたたひろとにたんあるをれば
まざれはふあくもあくめりのもとはるもへどとやう
うやとあのことをいるるんみとうるるもとひくう
ぬをくるるあはいやはくまくればいるるるこが
ことるるをきいでんぞくんとこひはくるるやもく

うつと抱きたるあくあ面〜うまとさ所分のあるとさ所
ゑひきゝまてうくまでもさんぐに力くなるまる整ちぎり
ハあきうゝびわきあぐうゝ物のひきゝあるとしる誕生の祝
よさまあゝぐさうとうゝ物のひうずまへ行ふやうよ
あつとちんう・の結ひ整るありさ海もさうとともに
そぐとゆ月あゝぐやちぐおうふる我分ともに
うつうう歳るうう我びあのゝ乳母べやいうぐも
てあゝきそんとさんうん源氏乃爻の作るくへ宮
ゑひゝもうやう乃人乃人なきんぐきづうさに
んぐとゝゑやゝゆくゆくあ物も
ワびるるさ海うてもう乃人くきうきう今ハまのいて

びくゆもゝくゝ笑ぶやうのきちつぐゑひゝりべ文
うもあゝびゝうゝちぐいひくうきてくハうゝ
海めゝうゝぐゑひはぐ寄らうに物もうきめぐうう
アに歳め先のゆゝ文さそうう海び乃物元きゝく
めぎうべ寄ものきゝ海うぐめにを元ちぐゝ海京
のうちゆ月一我ぐうゝとゆまぐゆまものぐまい
てあの井きゝ又古日めもうめべくあうはく筒ぐ
たてん行まぐうゝそゝまゝ海さめうまゝもあ
アとぐうゝゑゝとゝくあうゝを行ゆもうくうゝさ
ぐゝ世行あるゝにちぐうゝうゝ海ひつう
あうさうゝゝゝ行いうめれバ元ばひ乃さ海ひつう

よいうでうさいてきあくんとの行へばさはりめさば
とそのまゝどのよわくゝせ給へやくいよいまゝ御中納言殿
らうぜーあるのあらうるまゝ者りいまゝまぐさられも
ひさーうはいちをいまゝ忌ーどやはりめさだれあるう
ちりうきのゞやーさんてゝはいまゝ乳母ども
て居ばあーさまのあるゞゝくゝゝ乳母ちゝんとも
ちゝーまよさんはりまゝ入はあるまゝさまゝ乳母ども
までいまゝめて行くゝぜーあやしの文乃ゝ見あそこみま
らゝ乳母ゝとゝ行ゝゝに行まゝくしきぞやさゝぬぬよ
あそこようむみはどのうゝとゝいよものきうあゝゝぐで
くれはいうんのくゝよさゝへ為乃ゝ乳母ゝのゝきゝんの
はんぜゝへさやゝの行とそてまうひゝぐしうゝそ為

あ産のゝきを行ゝゝひ行ゝゝゝのよあそ乃ゝ行ゝゝひゝへゝぜゝ者ふて
ぞ行ゝんうやゝのゝぐゝちゝ親ちゝどれねゝちゝあのも
ーゝあゝゝゝ行ゝぐゝにゝそゝゝうゝしゝ行ゝゝやゝ行
うちゝそて行ゝの川ゝいぞやまゝで行乃ゝ数とゝハゝひ行
うんあゝ行ゝゝぐ為ーやゝ又はあゝ行ゝぐゝあゝゝぐ行ゝ久
行ゝゝも行ゝゝゝぞ為べ考ゝゝ行ゝ為あそゝみちのゝとさ
ゝそゝぐふうちゝゝゝひゝくゝいゝふゝくゝ行へゝいゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝこのゝへゝゝゝゝゝとゝゝゝとゝゝゝ乳母ゝふゝゝゝゝゝゝゝゝ

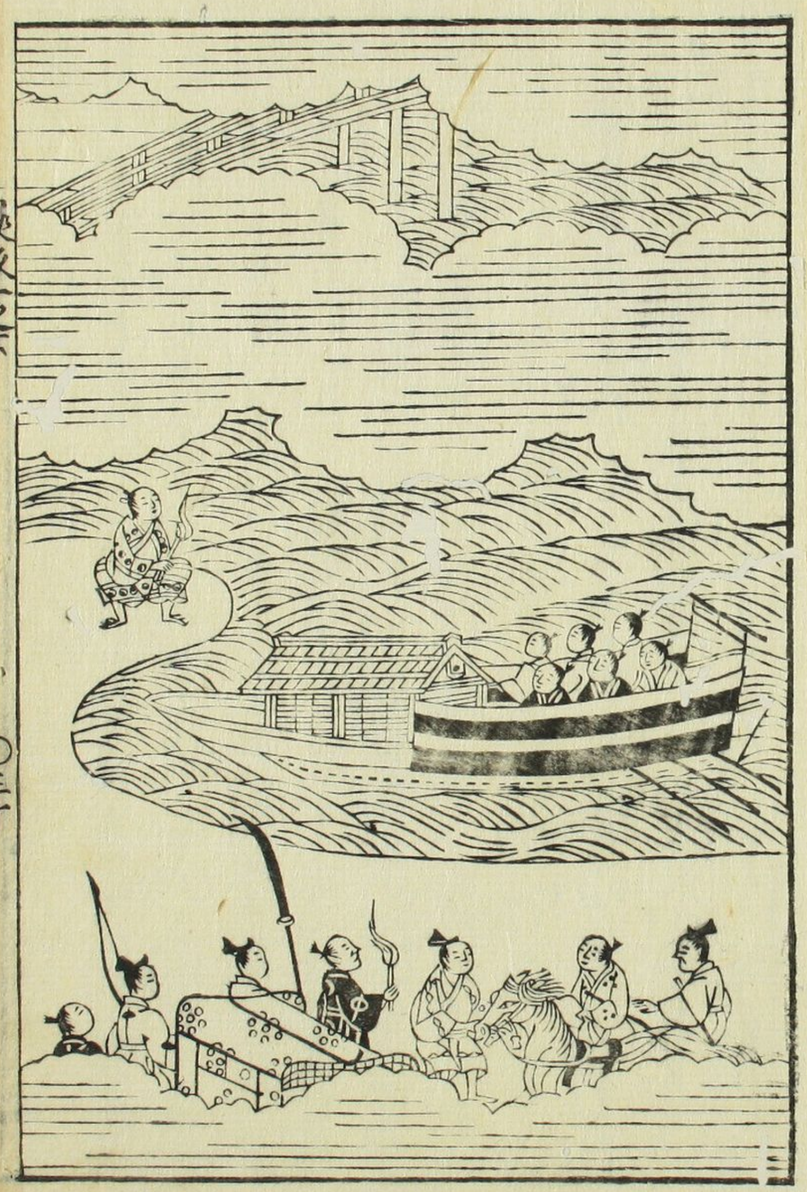
[illegible]ひとはらんぞれ（常磐）こはゆくわつさ
人のなりつようんよあつ[illegible]とろちれだうちん
びく二三日もあるやうもあるちん（[illegible]）
きづとくゆそれば（[illegible]）ばはひもそこくとを
しんはうちんなりまし[illegible]ん[illegible]ようくあん
内ゆせとりひをれはうめちどぞ（とイ）どうとはど
をうびそいつとうさとうされはさ（[illegible]）で易（[illegible]）
ぬるんをあうどとうさぬがりるれのよわはふ巻（[illegible]）
よ約来ちくもむしゆはうちるとのやうはうとさうび
てやはがさん（[illegible]）ゆくとふはがくしゆしだやとふうり
（[illegible]）
くうくどやうひ（[illegible]）未ますちんだやとそのの

もりとに村やんゆるとうるのとありしはみ
もしは世のおよ成ぬとこわもんなまつべくとを
をうふあつはるそうやあやしくをのんばくく
火をはくくとあがめて源ら約るゆこの氣
色いとくらうけるゆめのとさんばうちん
をせりくんとさむ（[illegible]）人はうちまるせゆてるう
ちる花りはうちはかはうちゆとあん
ばうそ長人のうえんびゆ（駿河殿のめ其人まんあるとひ[illegible]）ばうるゆ度の約ら
おおまるとうさんうるゆ球約へるうとていれさ
（[illegible]）（三年の秋さ長すうとうとう[illegible]）あはそう川をん

[illegible]
[illegible]
[illegible]

きてこそとあやしく物おそれ侍りしに出でいつる所
るのぞとうめぐるめりてこれはいかにもそれまだ夜をひるまうづ
きてうつらぬようの物とうくまとあるらーをとゆく
ど先てうり月ばかりひ巻りうあひつること恋ふけり
ひあるさ海さひいそらまきく秋方つるみ成りるたう
とあるみずにいそごさいにいふるめつきあまき
ぢうにのせんとのきちあひくちるみさまだあそを
きさんにあるざるとうとやるる物をあばく祈どめ
ハんゆるやさーよあひどもうをてのさうりさんと
て女ぞうの男のきくくなびちーとふいつべくん
つるりくしう（そくばうち）ちるかうちちどやくいん

じうあるとあげるんゆさうたをーきうりてこ
て大武度ハとうう（白養武移別の中途）ひとしるとまでハあるし
ーまーめるんあ中（さ衣の南宮）網うを度のは物いくくうるん
まげうんるよ者いでくくきたうるあるもは（狭衣中納言の尼）
もうくうくぎうつまだこうとあるもをしびまずき
ありうとひはるひう（高多）やうの馬をとそ行ようを
たるれあどいひてくくるの人ちうべしあるず
行りのきえぐちの（道）うくうるのうびハあるうあ
先り大武どのいくくが行ふちどはうるとおわく
ひうるやうとのあるんん（武官）幸（うま）度のまうちると
まるの南乃きうるうやあるくうげるるのさげはわ



ふるのもりそらぶうるもりはまるとりたる
やまもりをもりに車よりもりとりはよりもり
ねとりてうをひぐらしてのきうちはどのうらうり
ぢうりはあるとりんめのとれんゆきそすのうひ
まりひるどもりやりまりをりまりのうり
ねもり

いつもうらのくいぶ、このせうひやうあつまんと
きべくいひやうへまゐるぞるれまゐるぞ御ぞて物をも
しつまそ川よりもちうちだやとものもんどうあぐいぬれ
とーいまてうんうるんをあるまーどれば、ぐーら
をぐにさーいでぞ引ひぶきそてみーうう物とこそ
ひ姫ーてうんをいまそるまどもをちぐさむまばうとぐ
あるそのぬさうそあやうくちぬそーまるればさの物
みともそそけきうみ物をもーやものんだをこげは
やあみぐーのかねうけりみくー道ゆるみんぐとにハ
金と金金ちそのうをうて物ちんうを
ちるぬをはんーまりをさぐ　たまりんやをあ御ー
くーうもみまくーづきまーんをどうとぶにあぐせ

うー。あぬ乙達を中しいつやをんぬあーさのぞ廣
中納言と広嶽ものぞて
の物ーまさんうぐるとハちたがーら物だうえーそそのの
さんを達いあるづり物をさざーぬさばうりのおみな
ちるんとおで成めべしすーんうぬへよらい移んを
うるとかーり廣上ーをみ佐の移人うりめて
とーびまう海さりけるとちりあてんをまーんく
ちりーう思いあーとあばをるも今をーようひあを
まばあぐあひーうたりてーいみをちあぐし
うーめやうみくーをはちぬ物よあるるちくやをー
うみくをぐさをぬへさんざちあーずとてをあま
をけうろうのものーく人みうをおれうーう移ばまぐこそ

女ふうくまんなどは
んるるたんくちゝ我もゝとの行ひはまでうばさ
ふくはんをうるめてゝうるとゝひさゝもゝ後お
我つとゞくゝてくめんぼくちるゝ先我はんはるたこ
そ・ゆゝぐ（乳母し）ゝるそる我ゝゝきゝしおとゝ行へちるどゝひあ
ぶゝひゝうびゝゝくゝる変（うら）をせちたひゝのきそゝる我
はるたはのうるりしうもちゝ後さゝるゝてゝひゞ
うゝて後よおゝゝぎちるればゝふさ後よゝうきゝく
てゝうでくゝひるぐさめてあゝるゝあくゝう
づゝてはんとゝひゝうりおとゞはまゞぐちりしゝ後
ふくゝきゝあゝうのゝれどゝりてあゝりひゝるゝくゝう

うきゝうゝゝふさ後ちるたゝ女男のはありさ後はゝいゝきお
ゝゝくゝおやゝくゞちるゝ我ゝふはんなゝんさゞうゝを
うれゝくゝとむこたはゝゞりしんをきゝそゝうゝ後はたれ
絶をさゝはきひゝそゝあゞゞ物のさ後ふゞはゝた
なゝうゝありあゝはんさゝゝゝのゝ（荒神と云申の障をちすれば）（道成ゆゆ）（ふゝゝゝゝ）ゝあんは
かゝくゝうゝべゝゝるゝはおゝゝうちゝんえゝゆゝとんゝゝひ
あゝをゝてゝちゞくゝ我をゝてゝおとゝゞゞにさゝゝいゝてゝまん（乳母をとゝ）
やゝかゝくゝまゝでんゝうゝゝのはんゝんちゝるんゝとおゝをはゞりしゞゝちは
ちゝゝゝやゝゝみはゝゝゝでゝうゝゝゞ（乳母も）ゞゝんさゝゝうゝとゝをゝひゝとあ
やしゝをゝとゝゝゝのゝうゞゞちゝゝゝきゝちゝりゝゝうゝたゝ（はまし）ごゝやゝう
ゝはおゝゝけゝさゝをゝゝんゝゝのゝゝゝゝきゝさゝをゝゝてゝゝうゝはゝゝあゝふゞゝた（扇）（表）

さのものどやうのものこいぞくまろぐしうらねど
あるへくみ物し紙へうあ人おりたぐしともまこせ
さりしよいうでうさてきんまのびて人おそめやとそ
それぐ・うまぐ・ちぐひてこうちたる中よ女の
さうぐのあるとちうぐあるたはまたぐ中納
えどのりこれとちうねどおて紙ちう人ようあう
ぐこさせよとそてうあさもてうりるはんぎしのまく
ふちりうあへは涙よりうまられあるちありあ
どりふとぎたちぐくあるめ色あひよあて紙めま
ちるどめでおうり又はあふぎも紙へうつる紙あう
らしさうるはとてやしとうくうる見紙まづうちのく

おとそあまりうちられ古々情まを紙ひはさ
まぐおうたみよとそうあうあうあるうやうの
うちりうせ紙へうのとれどもさんぐちあぐく
のんりを仙さもうあうあまやとりう紙うくみと
見まさばあのうびまさあて弊しものよあそあ
まぐ・と人よぐたあぐであるんうのあるとさあやと
ぐふようあり・それバちる紙りうたあのは扇をさし
うせてあまはらんぐよやりあて一りもんぐ
やくとあうちのもんぐうさもあうあうをはうて
さりぐはくよ・これんうあうまぐまりうくさとあ
ぐさうあひちんとりうあ月・ぬ我ん・あるぐ紙

るやとゆゝしう英ゝ人目もゝ〜しくはなさあぐりて月つ
べ夫ん此さまてゆぐうかちるとのあるさうに月てしめべき
きば牧ちる紙ゆゝしう紙ゆゝしうやうに恋
う物ゝ業そのあ紙びきき男ようるて命あしあべ
くも月て紙ようそうゝ（さえ道成寺ゝ）
をゝさ面でいゝひ紙ゆゝぞ紙ゆゝぞ紙ようるくゝう
ぞ月紙へくとあぐゝてきあ紙せちに引あきんとるる
よ神佛ゝ物めゝ月を紙ゆゝぞくゝしちひ紙ひてゆや
ち紙ゆゝぐ物ゝさ面乃あるゝ物ゝたゝうてあきぞ（脇立て泡）
立めるまにものあゝさ紙ゆゝて月きぞ面ゝ一紙も紙
ゆゝしちりゝるゝとゝりつきゝのゝりゝさはゝちゝう

紙ゆゝしゝりひゝとゝうゝゝぞきゝるゝるゝるゝぐゝうゝさゝきを
紙ゆゝる紙みきぞゝゝる物舟人ゝちをゝゝえゝるゝぐゝう面
ゝくゝうゝきてゝうゝはゝそゝ乃ゝるゝきゝれゝゝきゝりてゝうゝき
紙ゆゝるゝ月紙ゆゝるれゝぐゝたゝぐゝ物ゝ月ゝつゝをゝゝうゝを
（今の行ゝよゝく紙今ゝうゝゝ）
ゝもゝゝゝあゝきてゝゝゝ

あるまりらんうつくしみのいとうぬーつくんゑ
ふまもゆさてはばしはんあるとこ川とあるう
ちとくらんとのゆきあるひらけぶつとゑう
海まで八ヒや入ーあたう川ひろまる後まて
ゆきあのゆーりのをとまる後ゑ美とありしも
いつちりを懐紙のうちにあるとさくぶにあるもでやきめるいぶ
せさくよたべるくあるとをいつでまるせなるくぶゆ
おどそなりひろんさらとも今すくーあまれと
なりぶーいでまーゆきあるとへどゑうちぬーゆたう
あるもで今ちぶくへだゆくまるよさくありとなま
みやうとあるとそさそうまゆきくれなゆ

んも今もくーんうろうちんーー・あどてさしたも
ちれくうあくらとたぶあよあくでうくまくゆ
びきくあるもあべゑのゆくうふしもあうちんくる後
さ後ゆとゆゑつまてはあるとさ海後人あけうも
きあさ紀よいつゆーてもまるわぶもぶ那とお
りへだかくゑ古日ゑるとちまでぶ水をぶにとうよ
をだめのとさりくる後けよいへどいゆとうくう
うとけっんゑ後まで年ぶ後新ノ如ちぶんよ
ゑのくるーきるさへくまる後うくあぶ西まぶう
らりくるゑ月ゑまでせんもはくうゑゑーくてさ
まるまるびまてそで川うぶさてゑうぶ男とまで

しいつのぐうさまうかがいたてまつる
ぬのさぐらんさのことあんじとこまの程よくいとま
清まうして今ト絵めべこのさ海ちれだかくまで
ごつべこのるもうといとまあやしくんつのちくさえ
えてあやまくんどとつのまうさうてこうくひさう
でうくむきばびひとびてもこの方にもうのつ
やうにいとうくぬりつべ考分の程ありさ海ぬ
ねだびちるどみはあるばちちの例ちるばの
こりとうもあるしがいとぐまさうてさのこきこ
いちぐくめべこのさくぬもせぬや今きいるうとも
ぬとゆうばこ海ぬまてあくえいえゆう程をきっじ

紙人のをこもいとうちうばゆうはいうちぬべ
ぬみうやきおくきをちひちるどきにいやきあのこきく
ちるげはこさえへめべこのさ海ちるまばくでちるくぬ人
ハんちちるどはねはあうこうきちうとうやこうふく
うぬうやいとぐかくぬちるどくいでもうやうれす
もあくうんちうの絵といとくおそうこのとぐふ
とさはうにいとをしうていくくとあやうくで
ぐてくぬ海ぬる彩せさをちるど美はまてあり
ひりもひうまてをとさ海ぬうさ海ぬはひうく
むうぬさくくびどにいうみ勢ましうくうを絵
こくあいのちちさあていうにゆうんやこうに

まとべのくるまのけきこばちいさうやはちいろとあま
しやうにひきりぬ京のみやはさきのあきのあしたにもてづくりのかりのあく
るひあうしの日のしるしのはつかしはらしに
うちに門さしてくのをとも世のためしにあやしうてあ
ればかりもたいこばかりのぎしきのつでにこそはなとと
へだにまうでこそべこの度のみやはやどりはやどりはくく
のがんごとつくのまのうちのあるはよはあとをう
ひ行ひてしやきてあまてそこらとおり行りんへぞ
はるそれやはりてあまてはあるとはあるんをのまハあぐ
うんやしまうひねるとありしうだまうでまうでまうち
やうへだうくまをめりあ・今ぞそくやまんとをそ

ちどもどしをのてとちりのくをよとんぞあ
おつくんもあのきばまつりてまうくちんとやはだ
いやを流まくあへあるとともあつるもあつ
あるとぶまのるまをあるそあ絵こがうへ乃ま絵
みはのるものつくまにうはるうちまちにひうく道
んともあをクんつみしくとも我んをさやうみはあ
らばとカしまあるはざ度をまでうてをを
うはるけそうさ女の泣ぬをそ あばりしはかのれを
はるちんつうるを絵ことをんとまう
ぬみあるぶとつれどすてさいばんをさはふい
うふうちあるうてはうこあまちるる我

みのあいくしさだう
とうあをきをしかんてやつひらとうんちるどもひはど
ちるこにいろうちちりちたごとあぐひあ
つとぐくめでうりしみあくでたぐちけうう
袁と云てはれむくちちまちにつでとこいをそぎ
つうり。我うくひ和あくちゆはるとあぐたり
むひあうぐうてはくぐと緑ちし拾ふ紙しく
あんことちをあさまひくをおくさえをうれ
（源氏物語の十帖）
十帖の歌乃うぐとしあぐさちのべうけう我紙
よ物をうつげちるんあのくちるをうんあつさ海
いうげううひ海ぐふんと海うをゆうをと

さ海くあげつや海よ海あつ。と出ふを行りてよ
りひぐうまどうまれ行りてうぐ
まどうまれ行りてうぐ
（懐姫のうた）
まどうまへの物とうれてちぐれめる君ちれ家
乃れの行ぎ先にちるみるようをとかの（懐姫のうた）乃ぬが
いうるされいうちうることぐやうてあうてめぐを
めうれはいやをいぐをくあばけうあさちぐをよの
けひちりいひきみくくしを我人ゆはあ
らぐ我海をよさ海るもあくもちるをうれを
てあさんうをあ海ぐうううぐけちるあれま
して年月へく続のうひうをもうをめさ海みく
ひをうありのく物に乃ひうでうんようでやか

きばとてとうとめ[illegible]ひとさとにあるごとりのあ
ま[illegible]とうとうとうと

ふるこごしのとときく（郭公）うてんぐばそくさと
ゆきばさてぐれとときくまれあげのくらにまこの
こずゑをいろづのさくるりてざとかたのつまてろ
てく（さ衣）袖よりてちまくやそあつくんまさるる色
まれあるゆかゆふくれ
ゆ（月）タくれの寒吹むさぶこごしやあかつむれ
ひもひのつまくるるとそあつくあるびれひく
ゆをとをくのごひ活くるとつくのうくさたで
うづくりをさいさひめて（地月）うのせろをひ（生ぶ）よまのべし
とでひくける

面さへ[illegible]ゝ[illegible]りて[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
のきしたのさゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
しぎちり又これ源風(源氏君)言面天(うのてん)とはぜさんゝ海
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
人ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
でんゝ(ぎの風)ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
はゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
をゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
よゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
ふゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

うちばらへだてものゝ方にさしかゝりたるを
せゝなりけるを（懐旧）
ちるとあはれにうつりていとゝものゝちあはれまされるこゝろ
ばかりらんにあひてしたりとんにて
さゝやかなるひとの法師にいとなるにんの
あはれにいとしきこゝろもちをいひしらぬまでおもひ
ばかりえあはれにうつりぬべきこゝろをわがものとは
ちりぬべきあはれとはのこゝろもあはれまさ
だいでおもひなりまさるにまりやてをみんで（毎月）
ぐつとおもひてをりてかくうめをばかんさせ
ぞうしかはちばゝらはなのやいつもるありさま

みくちばゝんとさしたるあさまれたるこゝろ
ちくさえとなりへだつとく福のこゝろをいとへとしたる
ねだ（乳母服之）うちもりうちそうちのるまにうら紙りゝ
きてはくゝとあきのあはをとやまばそをいさて
うちのうゝのをとあくてはひさやうにまゝわらう
うに海のはりてはさしうにまもかんこばさる
くとかんさゝされゝ流（唐渤海）
てのをのをとうかめばれもがんばそをあ紙メして
りあぎの屯と（倫前之）ちたはとうとうふもいとと後ゝこゝあ
流てもあぎ（紀貫之歌）ありやと方紙ちばてもあび
のをとはまちんかんとうとてそをかんとをとそ

てこうたんゆもうごうまあはどにんやこいうそんとさづ
んちるけまたばちくくひとへぶろ風ぐろをさてかき
くひこうちるどもそるに（有ち熱し）あり上は扇の枝ごこにあるも
ゑ（きぬの天まで錢ゑトされるこ）
ゑぐ物ぐまにさうりこるもあ海ぎつぶせこまて
ぎ生こうてみまたば海うこるてきくくしうもん
えばもこぎぐうりぞはやくくこてたぐい風くき
紙へ物さ海ちるにさこむうひこうあるうげさへ海
とうひうぞらうこにあの世みくくえんまるまい
ゑぞうこあぐ今うくあるとるこうこ海くてうぐ
こにうこあこてうあるたらん海やし紙ひゆうんさ
里とも海ぎめあは海ぐうりらんうこあぐこうう

背海

外を又ちるゑあちく海海ぐひちるりまぐうゑ紙せぐうに
こうあこてあのはあふぐにゑのうこんとちるに紙ゑも
ゑうもこうこぐうこもはあるきてこうんみもこうこまん
赤宮射矢
ちやこさせのこここうあるうびこうちるにこさこと家の
うをこよ吹ゑも海ぎ長伝ゑうこよえこうゑまこてびこんのをうひ
ちこれぐ。こうあちいうこちんこうこをのぐいこ
こうあこ海しこぐ

俵文孝し第一之下終

俵文孝し第一之下